

## 東洋學藝雜誌第五卷第八十四號

明治二十一年九月二十五日發兌

## ○ 治外法權の話(前號の續)

法科大學教授 鳩山 和夫 講演

起りも違つて居り、品物も違つて居るものも治外法權即ち Extra-Territoriality と云ふ言葉を用ふると云ふのは大變不都合である。前に言ふた公使の話しふ立ち戻ると公使は多くの數のあるものでは無く一つの國一人以上二人も三人も送ることは先づ無い。イギリスから日本小來て居たのは先づ一人で(今は居りませぬが)公使とか代理公使とかは先づドコの國でも一人に限つて居る。此の僅かな人であれを治外法權と云ふ特典を與へても差支はない。公使となつて撰をれて他國小行く位な人物が金を借りて借り倒すとか、泥棒をするとか、人殺しをするとか、追剥ぎをするとか云ふと先づ有るまい。法律と云ふものゝ悪いやつが有つたとき小イツでも引き合ひに出て來るやつで極ごくの良民ハ死ぬまで裁判所小出る者は無いので

ある。故に一人二人の公使に向つて治外法權と云ふ特典を與へても一國總體の政治上は餘り響きは起らない。若し或る場合小公使が悪い事をしたらドウするか、公使小は治外法權の特典を與へて我が法律を執行せぬと云ふと、公使が泥棒をしたら取り得とくふなるか、若し悪い事をしたとき小はドウするか。其の時小は外小方法があります。公使が公使たるの職務を汚すときは「斯の如き人を公使として待遇するとはイヤダから呼び戻して下され」と其の公使の所屬政府小言つてやるとが出來ます。さうすれば通常の政府なら呼び戻します。其の例ハ外交上小はまだ短い我が政府でさへあります。此の前の前の條約改正會議の時小或る國の公使が日本小來て居て其の公使が秘密小すべき事柄を秘密小せず小公け小して新聞紙小出したと云ふ事實がありました。其の時に日本政府は其の公使の政府小手紙を遣やつて「貴國の公使は斯の如き所爲があるから呼び戻して下され」と言つてやつた。ところが其の人はトウトウ呼び戻されたと云ふ結果になりましたさうです。モット甚しいとがあります、イギリス、スパンヤ



の交際の歴史の中はスバニヤからイギリスへ行つた者が政治上小喙を容れた。政治上小喙を容れたのみならず政黨の或る黨派小荷擔してイギリスの現政府を轉覆するとも行くまいが何ふせよ現政府の好まないことをやつた。ところがイギリスでは手紙を書くやうなことをせず、其の公使を捕へて船に乗せてスバニヤ小送つてしまつたと云ふ事實が有るです。僅の人なら假令ひ悪い事をしてても斯の如き方法がある。通常なら呼び戻し、それより悪るれば縛つて送つて遣つても宜い。それは萬國公法の許すことで今、日本小來て居る外國人は支那人を除いて先づ二千人ばかりある。交際國が十六で公使が十六人ぐらゐなら公使たる人が先づ所謂紳士であるから悪い事はしない人でありませう。併し二千の人が「我々は治外法權の特典がある、我が輩の頭あたまは警察權も裁判權も及ばない」と言はるゝと甚だ困る話して一方の公使の特典は萬國公法を調ぶまば分るがエウロツパ外國人が東洋小來て居るところの特典は何から起るか云ふと條約から起るのであらう。若し特別の條約が無かつたらエウロツ

パ外國人でも東洋小來れば足を陸小上げるや否や其の國の法律小従はなければならぬ。條約の特別なるものがあるから特別なる特典をもつて居るのであらう。例へばメキシコと日本とは條約が無い。ところで此のメキシコ人が日本小來て若し悪い事でもするとか若しくは金を借りて返さぬとか、また刑法小觸れるとか云ふやうなことをすると云ふと日本の裁判權を實施して服従せしむることが出来る。今、國を忘れましたが或る無條約國の人小裁判權を執行したことがあります。假令ひ例が無くても萬國公法によつて各國同一でドコでも分つて居ります。これは少し萬國私法の方小涉りますがフランスの法律に據ると丁年小なると云ふのは二十五歳であり、イギリスの法律に據ると二十一歳である、イギリスの法律だと二十歳以上の男子は契約を結ぶことが出来るし、二十一歳以下の者は男子でも女子でもが幼年者であるから契約を結ぶことが出来ないとなつて居る。ソコで二十二歳のフランス人がイギリス小出かけて行き滞在の中中イギリス人と商賣上の契約を結び、期限が來ても其契約を實施せぬ

と云ふことが有つたとすると、イギリス人は其の人小向

それで條約は數が澤山であるが法律小關すること、裁判



起るのであらう。若し特別の條約が無かつたらエウロツ

と商賣上の契約を結び、期限が來ても其契約を實施せぬ

と云ふことが有つたとすると、イギリス人は其の人小向  
ツて訴訟を起したと御覽なされ。さて裁判所小出て行ッ  
て「私はフランス人で二十二歳だから契約を結ぶ權が無  
い、無効なる契約ハ實施する義務は無い」と言ふと裁判官  
は之を許さずして「貴様はフランス人で有らうが何であ  
らうが、イギリス小來て居ればイギリスの法律に従へ、お  
前の國ではそうか知らぬが我が國ではいけない」と言ッ  
てしまひませう。さういふ譯わけで有るから別に條約が無け  
れば他國小行けを其の國の法律小従はなければならぬこ  
とは普通小定ッて居ることで有る。うれで必要なことは  
我が日本とエウロツパ諸國と結んである條約はドンナも  
のか、治外法權と云ふ特典をエウロツパとの條約小言ッ  
て、エウロツパ小與へたことが有るか、治外法權と云ふ意  
味は警察權小も裁判權小も従はないで宜い、法律をも遵  
奉せぬで宜いと云ふやう小廣く取ッて、さういふやうな  
ことを外國の人民小讓つたことが有るか、無いか。若し無  
ければ日本小來て居る外國人は治外法權を有して居ると  
云ふことは言はしてはならないでは有りませぬか。

それで條約は數が澤山であるが法律小關すること、裁判  
權小關することは悉く簡單で一つの例を持ち出せば、其  
例で總ての摸樣が分る。それゆゑコ、小明治二年小我が  
國とオーストリー、ホンガリー國と結んだ例を引いて來  
て日本人が條約したことを外國人が受くべきことはドレだ  
けかと云ふことを言ふと、世人の治外法權と云ふことは  
ドレだけか直ぐ小分ることであります。明治二年小オ  
ーストリー、ホンガリーと日本と結んだ修交通商航海條  
約第六條小斯ういふことが書いてあります。

「日本人民或ハ他國ノ人民ニ對シ惡事ヲ爲セル澳地利及  
ビ洪噶利人民ハ澳地利兼洪噶利コンシユラル官吏ニ訴  
ヘ澳地利及ビ洪噶利ノ法度ヲ以テ罰ス可シ」

エウロツパの外國人が日本小來て日本の法律小従ふとか  
従はぬとか治外法權の特典と云ふことを持つて居るとか  
居らぬとか云ふのはタツタこれだけの文章からで有るか  
らこれだけの意味さへ能く見れば日本小居る外國人の法  
律小關することは分ッて居ります。

これは日本人民或ひは他國の人民小對してオーストリ



一、ホンガリーの人民が悪事をしたときハオーストリア、ホンガリーのコンシユラル官吏ハ訴へてオーストリア、ホンガリーの法度を以て罰すると云ふことで極簡單であります。併し法律家の頭あたまで讀んで見ると、ヨホド意味の有る文章で有つて、分析して見るとこれが二つに分れる。其の前ハ前置きを言つて置かなければなりません。凡てドコの刑法でもドコの法律でも其の國の人民の權利を並べ立てた法律は少なく、イツでも裏側うらがはから言つて居る。例へば人は身體を全うするの權を持つて居る、財産を全うするの權を持つて居る、自分の所有物を勝手に使用するの權を持つて居る、自分の品物を人に取られないと云ふ權利を持つて居ると云ふ如く名譽の權、財産の權、身體の權と云ふ權が有る。併し日本もイギリスにもフランスにもさういふことを書いた法律は無い。イツでも我が物を誰たれか道理なしに理由なしに持つて行けば取り戻すことが出来る。人の名譽を傷つけた時は罰金又は損害を求むることが出来る。人の命いのちを取つた者は殺すと云ふやうに裏から出て行つて當り前の權利と云ふものが

有るものと認みめて人を毆打したら重禁錮何月と云ふことを示してあるが、人に毆打されない權と云ふことは別に示して居らない。ドコの國の法律にも犯則の方の側がが出て居ります。其の人の品物を持つて行つたヤツは其れは返さなければならぬとか云ふことは其の以前ハコ、ハ所有主が有つて我が品物を取られなく勝手に使用するの權があると云ふは假り定めた話である。權利が無ければ誰が持つて行ても宜い。海うみの魚ハ所有權が無いから釣つても宜いし、人の池の金魚は所有權が有るから取つてはいけない。權利が有ると無いと云ふことハ依つて觸れる觸れぬとの區別が分れて来る。故に法律が或ることを爲してはならぬと云ふ場合には一方に大抵權利が立つて居る。

これだけの前置きをして此の文章の解釋に取り掛りますと此の文章は二つに分けることが出来る。オーストリア、ホンガリー人は日本人其の他に向つて悪事を爲すべからずと云ふ意味がある。モウ一つは若し悪事を爲したときはオーストリア、ホンガリーのコンシユラル官吏に訴へ

オーストリア及びホンガリーの法度ハ據つて處分すると

なるのである。オーストリア、ホンガリーが日本人の權利



云ふやうに裏から出て行つて當り前の権利と云ふものが

はオーストリー、ホンガリーのコンシユラル官吏に訴へ

オーストリー及びホンガリーの法度ふ據つて處分すると云ふ意味がある。總て刑法でも何でも法律文はかういふ風に見ることが出来る。始めに傷をつけてはならぬ。付けると罰金、禁錮、懲役に處すると云ふやうなことである。

此の文章を見ると日本人ふ向つて悪事を爲すべからずと云ふので裏から云ふと此の人の權を侵してはいけなさと云ふことで法律が私に向つて傍聽者諸君の權利を侵してはならぬと云ふと傍聽者諸君は權利を持つて居るので、傍聽者諸君に向つて其の權利を侵してはならぬと云ふのは傍聽者諸君の權利を侵すべからずと云ふことで日本人は日本の權利を得て居るので日本人民一人一人の權利は何ふ由つて得てあるかと云へば日本の法律の賜たまものである。オーストリー、ホンガリーは此の權利を侵すべからず日本人の所有權其他の權利を侵すべからずと云ふので。ツマリ日本人民の權利を侵すべからずと云ふことは日本法律を守れと云ふことで有るから日本の法律を守りつ、日本人民の權利を害すると云ふことは出来ないこととて悪事を爲すと云ふことと同時ふ日本法律の犯則者と

なるのである。オーストリー、ホンガリーが日本人の權利を侵すべからずと云ふことふなるのです。さうすると此の半分ふ據つて此の條約をドコの國ふも適用し得べき者とすればドコの國の人民でも日本に來れば日本の法律を守らなければならぬものであると云ふことふになります。

それから後半あと半分は若し日本人に對して悪事を爲した時はオーストリー、ホンガリーのコンシユラル官吏ふ訴へ、オーストリー、ホンガリーの法度ふ據つて裁判をすると云ふのですから、コ、小裁判權と云ふものが分つて來たので本當は日本の裁判官ふ於て裁判すべきであるが犯則者が有つた時にはオーストリー、ホンガリーの官吏が裁判すると云ふのであるから語を換へて之を云へばオーストリー、ホンガリーの官吏は日本の裁判所ふ代て裁判權を實施すると云ふことである然るにオーストリー、ホンガリー法度を以て罪すべしと有るか故ふ例へば日本の法律ふ於て禁錮を以て罰すべきものを罰金のみで濟ますと云ふ時はコンシユラル官吏は罰金だけを課するのである。前の半分は日本の法律を守ると云ふので後あとのは當り前な



ら日本の裁判を受けるのだが、これをオーストリー、ホンガリーの官吏が裁判するとしたのである、

此の解釋より外ほかの解釋の仕方は無いが此の解釋の仕方ふ據れを日本の法律は外國人が遵奉しなければならぬとは確かである。若しさうで無かつたら大變である。若しさうで無くして二千餘りの外國人が日本の法律を端はたから犯して構はぬ、人が税を出すのに出さぬでも宜い、人が悪い事をすれば刑法に據つて處分せらるゝが自分は如何ほど悪い事をして處分されないと云ふことになる、エウロツパ人が新聞社を始めても日本の新聞條例で檢束されることとが無いから讒謗罵詈を極めても猥褻なることを書いてもドウも出來ず警察官を以て押へることも出來ない。また日本人が酒を造るには一石に五圓か六圓の税を出すのにエウロツパ人が無税でやつて構はぬと云ふと日本政府は成り立つもので無い。日本政府は兎もあれ日本人が成り立つべきもので無い。これはドウしても外國人が日本の法律を遵奉しなければならぬものでたゞ裁判と罰だけは外國人の方でやると云ふ風に解釋しなければならぬ

い。またさう解釋するより他に解釋の仕方は無い。

故ふ此の條約を以て治外法權の特典と云ふやうなギョウギョウしい名前を附けた特典を與へたものとは見られませぬ。第一日本と外國との條約はイクツもあるが治外法權と云ふやうな文字はドコにも一つも無い。また日本の公使や日本の外務省や大臣等の用ひた書翰の中にも治外法權と云ふやうな文字は無いと思ひます。條約の中には一箇所も有りませぬ。無いのにドウして出て來るか、たゞ前に言ふた公使と云ふやうなものが受けて居る權利に似て居るから外國人等の持つて居る權が治外法權と云ふことに飛んでしまつたので間違つて同じものだと見たから同じ名を附けたのであらう。總て外國人が公使同様の權を持つて居ると云ふ如きは大變な誤りである。公使の特權は萬國公法で分るし、日本支那その他に在る歐羅巴人の特典は條約に依て得た特典である。我れふ於て譲り渡さぬ權利は彼れ等に於て持つて居る譯は無いです。これは法學者としての御話であります、實際の模様は今日御話と致しませぬ。

(完)

段はれ斷り申します併し傍聽諸君の顔を見たいしま



けは外國人の方でやると云ふ風に解釋しなければならぬ

今日御話し致しませぬ。

(完)

○ 有毒植物

明治二十一年五月十九日大學通俗講談會に於て

醫科大學教授 下山順一郎 講演

只今は三浦君が誠に美談を陳べられまして諸君の御機嫌をタツプりに取りになつたことであります私も「下等植物の蕃殖」と云ふことで新聞に廣告をしましたたが此の事件に關しましては余程前支度も入りまた一々諸君小顯微鏡で眼目につけぬとれ分りにならぬこともありましたこの事件は學術に關する見解が無くては多少に分りにならぬこともあるかと考へます併し「下等植物の蕃殖」と云ふことで陳べましたならを果して諸君の興を買ふことも出来ましたらうが「有毒植物」と云ふことでは諸君の興を買ふことが出来ず却つて倦厭を來すことが有るかも知れませぬ此の段は前以て申し置きます

大學講談會會長の命によりますと「成るだけ柔かい言葉を以て陳べよ」と云ふことでありましたが私は私の顔色の通りに優しいことや平たいことは申せませぬから其の

段はね斷り申します併し傍聽諸君の顔面を拜見いたしますと一通り學校で説くことのは分りにならぬと云ふやうなれ方は一人も居られませぬやうで有りますから私に取つては喜ばしいことであります

さて茸のことに就いて申しませう茸も委しく申すと長いことであるから簡単に述べませう茸は有用で果して食物になるかと云ふと害にならぬ茸は良好なる食物と看做して宜い先づ食して體の養ひふなることは殆んど肉に伯仲すると言ふと言ひ過ぎるが先づ肉に次ぐ位であります其れは何故かと云ふと凡そ食物は燃燒體と成形體との二つに分ちまして燃燒體とは燃ゆる體と云ふことで燃ゆる體と云ふのは食物の中で體温を保持するもので總て温を生成するの用となり成形體とは肉を殖やし滋養ふなるものである人間で言へば其の身を營養せんとするふは燃燒體と成形體とを喰はなければならぬのであります併し此二物を喰ふも比例がありまして燃燒體をかり喰つても成形體をかりでもいけませぬ例へば燃燒體を五百目喰ふ時は成形體百目ぐらゐ喰はなければなりません燃焼體と



申すは早く言へば米麥の類で有りまして成形體とは肉類  
玉子の類で米などは重もに燃燒體より出來て居るもので  
あります成形體も含んで居りますが僅かであります獸肉  
類は主もに成形體より成るもので動物社會に取つては要  
用なもので有ります東京や繁華な所に住む方には茸など  
は緊要で無いが寒村僻邑に住つて貧困ふしてナカナカ肉  
や魚類などを喰ふことも出來ない者には茸は緊要の物と  
思はれます如何となれば茸は山中とか森とかに生じるも  
のでありますから

志かのみならず茸と云ふものは近來ナカナカ需用が多く  
なり年々輸出するやうになりました千八百七十一年から  
段々に椎茸の輸出がアメリカや支那に多くなりました現  
今は年々に凡う十萬圓内外の椎茸を輸出するやうになり  
ました從つて日本に於て茸の培養も盛んにしなければな  
りませぬ日本では茸の培養は椎茸に止まりまして御存じ  
の通り松茸とか「シメヂ」などは作りませぬこれは試した  
ことはありませぬか随分椎茸を拵へる如く人工で培養す  
ることは出來やうと思ひます芋や大根を作るのと同じや

うなもので有りませう一例を挙げますとエウロッパで貴  
重する茸がありますこれはドイツでもフランスでもシヤ  
ンピニオンと言ひラテン語でアガリクス、カンペストリ  
スと云ひます私も二週間ばかり前に本郷の大學の裏に這  
入つて採りました(今日は生にて居りませぬが)向ふで  
ハ之を培養いたして居ります此の茸は清潔な處にはあり  
ませぬ大抵牛馬の糞を積んだ處にあります

茸にも尋常の植物のやうに種がありますこれは植物學家  
の所謂種とは少し違ひますが先づ種と同じやうなものが  
ありますコ、ニ一種の茸がありました其傘部を横に切り  
ますと櫛のやうよなつて居りますこれを顯微鏡で見ます  
ると種が二つづ、クツツイテ居るもあり又四つづ、附い  
て居るものもありますこれを集めて蒔くのはムヅカシイ私  
が西洋で見ましたのは先づ長さ一間に幅三尺ばかりの箱  
を拵へ其の中ふ一尺ほど馬糞の腐つたのを入れ其の上に  
其の茸の能く熟したるものを細かにきざみて撒布し馬の  
シタゴヤシにて之を蓋ひ凡う十日か十五日たつと其の  
ヤシの上に白いものが出來ます其れに水を注ひでコヤシ

ヲ乾かぬやうにすると四週間か五週間で茸が出て來ます

他のお方には毒になるものもあります今二三有毒の茸を示し



ることは出来やうと思ひます幸や大根を作るのと同じや

ヤシの上に白いものが出来ます其れに水を注いでコヤシ

ヲ乾かぬやうにすると四週間か五週間で茸が出て来ます此の道理で見ますと椎茸などは日本で作て居りますがこれに少しく改良を加へたなら一層能く出来ませうと思ひます

日本では松茸は只天然のものを收穫いたしますが茸類は各々性質が違ふもので其地味も適する處も生へるもので松茸の生へる處は定つて居りまず其松茸の生える處に於て今年松茸が生ひますと其れを取らずに置いて其の土を持つて来て近傍の土と交ぜ時々灰とか白水をかけて置きますと翌年松茸の出来る時期も至まば澤山の松茸が畠に作る通りに出来ませうと思ひます私は試みて見たいと思ひますが東京近傍は地味に適しませぬ幸に京都等は松茸の出来る所でありませうからさういう所の方が他日御研究になつたら必ず好結果を得ることと思ひます

松茸其他茸類の需用ハ随分多くして滋養にもなりますが又毒あるものも多くありますどの茸は害小ならぬと一概に言ふことは出来ませぬ人類の異なるによつて害になるとならぬものもありますトヒ私か喰つて中らぬものでも

他のお方には毒になるものもあります今二三有毒の茸を示して諸君の御注意を促さんと思ひます

凡そ茸類の有毒無毒を見わけけることは甚むづかしいものなれども淡黄色なるもの綠色なるもの異臭あるもの又切れば白汁を出だすものは大抵毒あり圖中辛は私の國尾張では天狗茸と云ひます併し國々に稱ひか違ひますから天狗茸と云つても役に立ちませぬ植物學者が之をアガリクス、ムスカリウスと云ひます獨乙國のストラスブルグ府大學教頭シエミードベルグ氏之を分析して猛毒なる物質を發明し其毒質をムスカリンと名けました又此茸に就て奇談がありますアジアの東北小カムシヤツカと云ふ國があります其の國では此茸を喰ひますと精神を爽かにし身體を強壯にするとか酩酊の心持がするとか云ふので祭り日などにはこれを焼いて喰つたり焼酎に入れて飲んだり致します此の國では其一箇を狐一二匹と換へることになつて居りますこれを適度小食すれば愉快なりました其人の小便を他の人が飲むと其醉を移すと云ひ貧人は富貴の人の小便を飲んで間ふ合せ一人の小便から段々一ヶ村



の人民が醉ふと云ふことであります

甲圖は獨乙國にては之をシヤムローセ、ギフトピルツと稱へ之を日本語に譯しますと「耻を知らない毒茸」と云ふ義で其色の緑なるあり又赤色なるあり甲圖の卵形をなせるものは其幼稚なる時の縦断面にして獨乙では之を天狗の玉子又は幽靈の玉子とか云ひます此の發育は甚だ奇體なるもので此玉子の上皮が破綻し棒形のものが突出して圖の如き奇異なる觀を呈します此繪圖を御覽になつた方は正物を御覽ふなると直き分ります

乙圖の如き紅色の茸ふ二種類ありまして一つは種が白く一つは桃色であります桃色の方は毒があります故に總て紅色の茸類は喰ぬがよい其他丙丁戊己庚圖等の如き茸類は大抵毒あるものと知るべし

茸類は概して時日を経ると毒の無いものでも毒が出来ます日本に於て官報とか衛生の報告を見ますと中毒とか毒殺とか云ふとイツでも茸類が多いからヨホド注意をしなければなりません日本はさう申しては諸君に對し恐れ入るか知りませぬが動もすると輕薄な人があり茸類の有

毒無毒を問はず偶然己の目撃する所の茸を喰つて其毒に中りたる例少からず此等は最も謹むべきことたりエウロツパでも茸の毒に中ること少なからず故にロシアの政府では有毒の茸類を摸寫して人民に公示せることありと云ふ

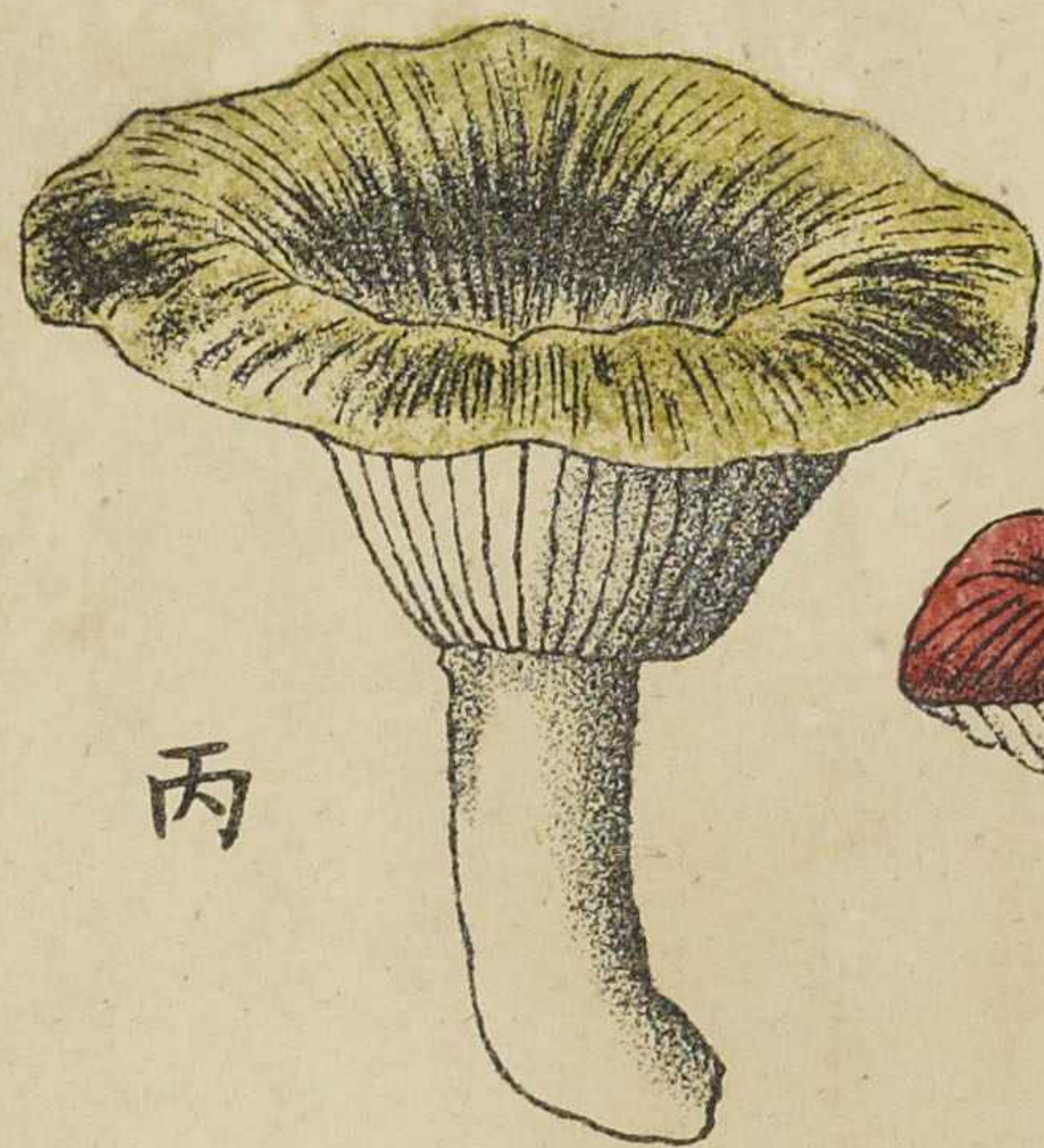
茸類はまた人類に害を爲すのみならずまた動植物にも害をなすものがあります例之ば壬圖は葡萄に害をなすもので之は米國より歐洲諸國に傳染せしものにして昨年の秋本邦に於てもみうけました此茸は略ぼ卵形をなし五六百倍の顯微鏡を用ひざれを觀取することが出来ませぬ此茸の附たる葡萄は萎縮して自ら落下します此茸は温飽粉よりも軽く風に伴ふて飛散し易く一とたび葡萄に附着するときは忽ち蔓延し葡萄園一面に害を被むることがあります故に歐洲に於ては其附著蔓延を豫防するが爲め葡萄園に硫黃を撒布しておきます東京小石川の植物園で此の茸の附いた葡萄を見ましたがこれが附いたら大變であります葡萄園を有する人は能く注意しなければなりません

りれからコ、に五穀類を害する茸がありますこれは麥の

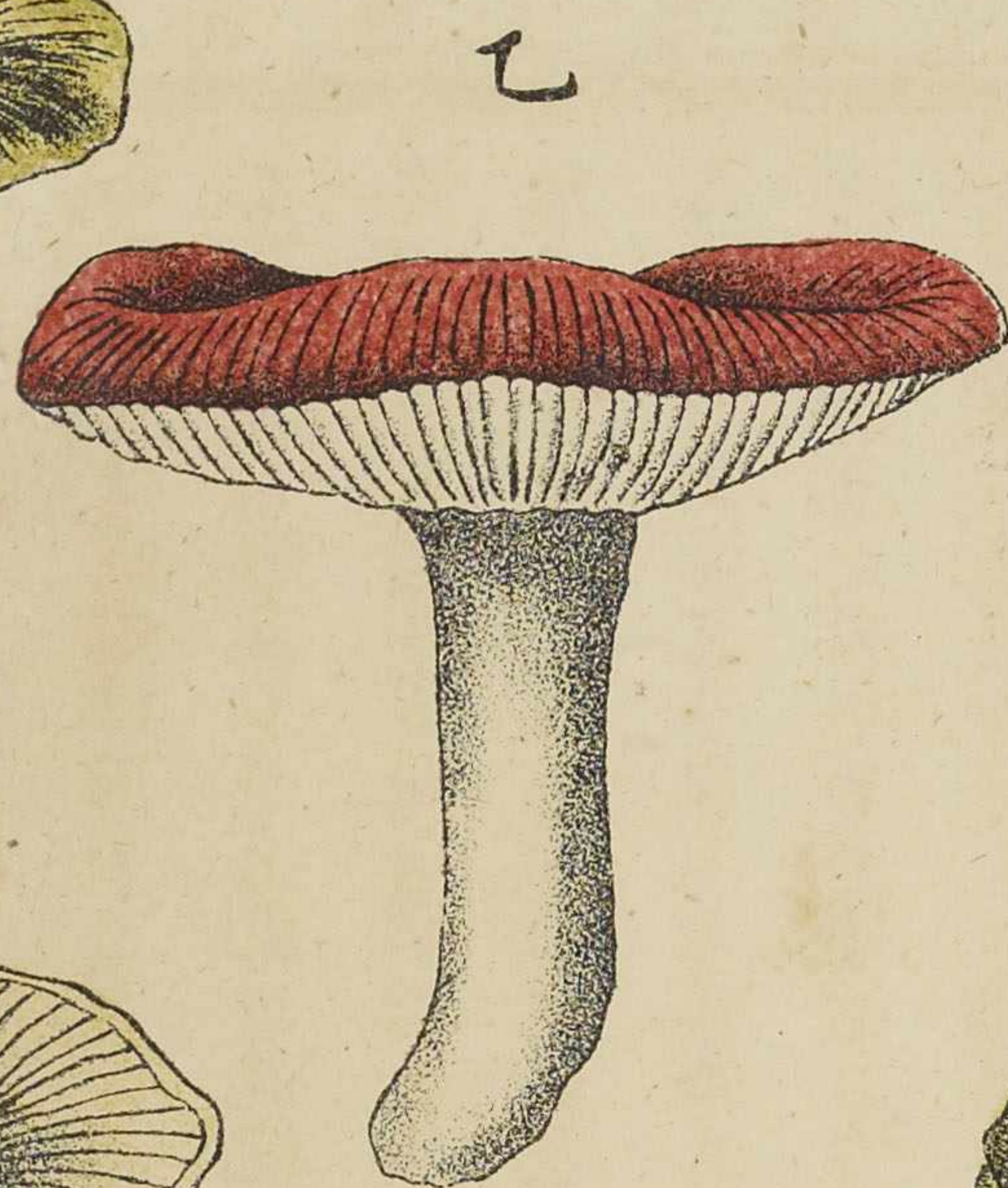


入るか知りませぬが動もすると輕薄な人があり茸類の有

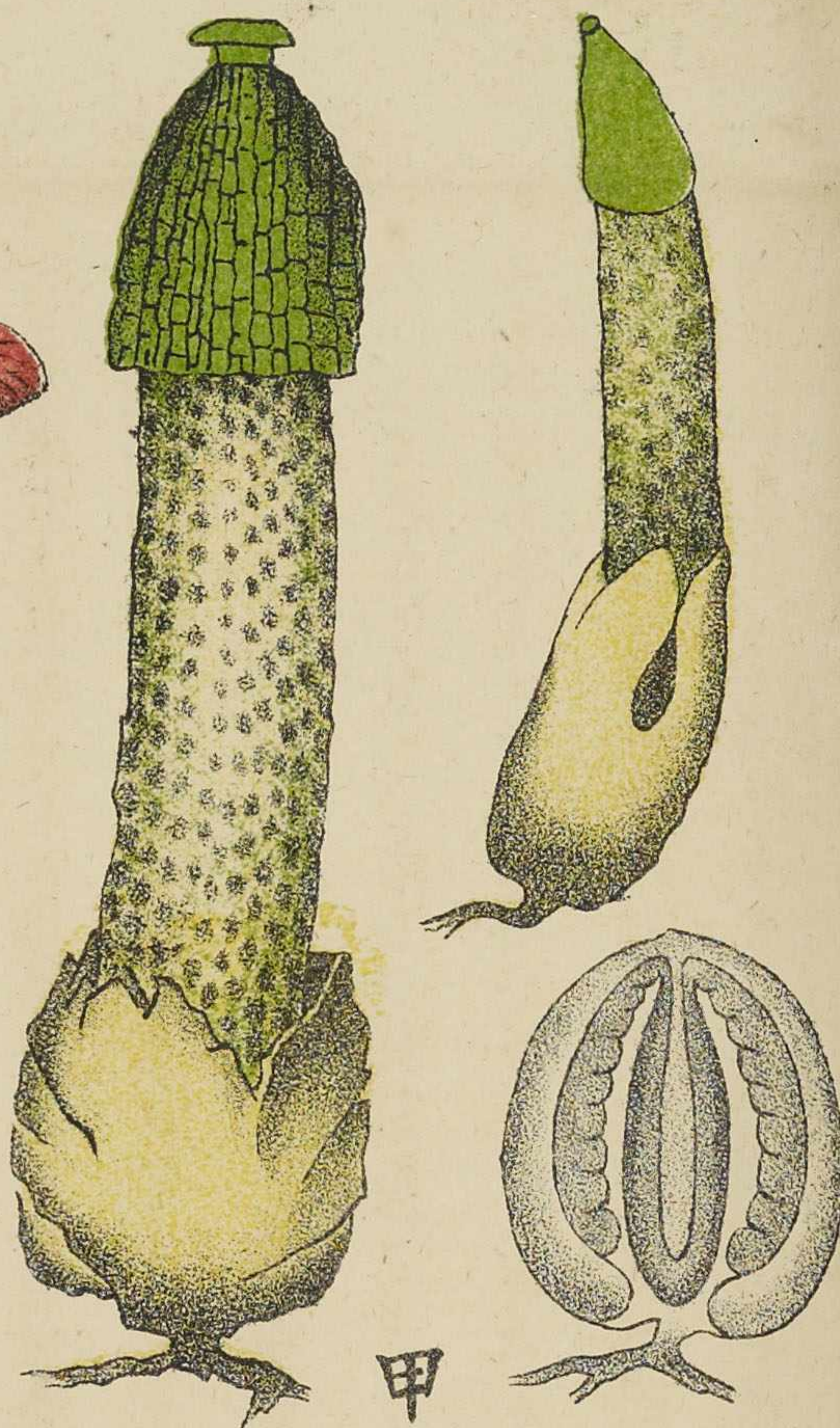
りれからコ、に五穀類を害する茸がありますこれは麥の



丙



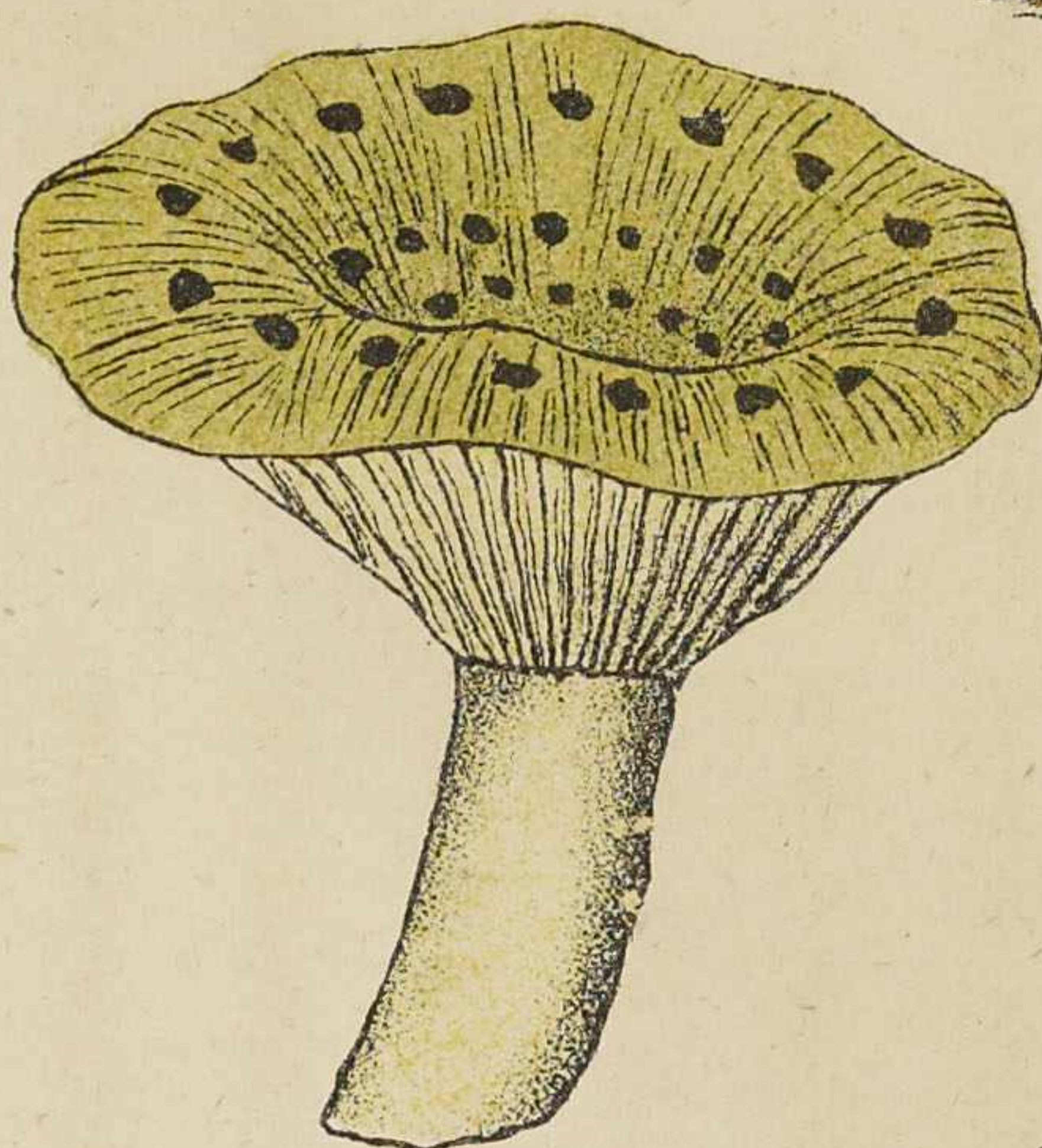
乙



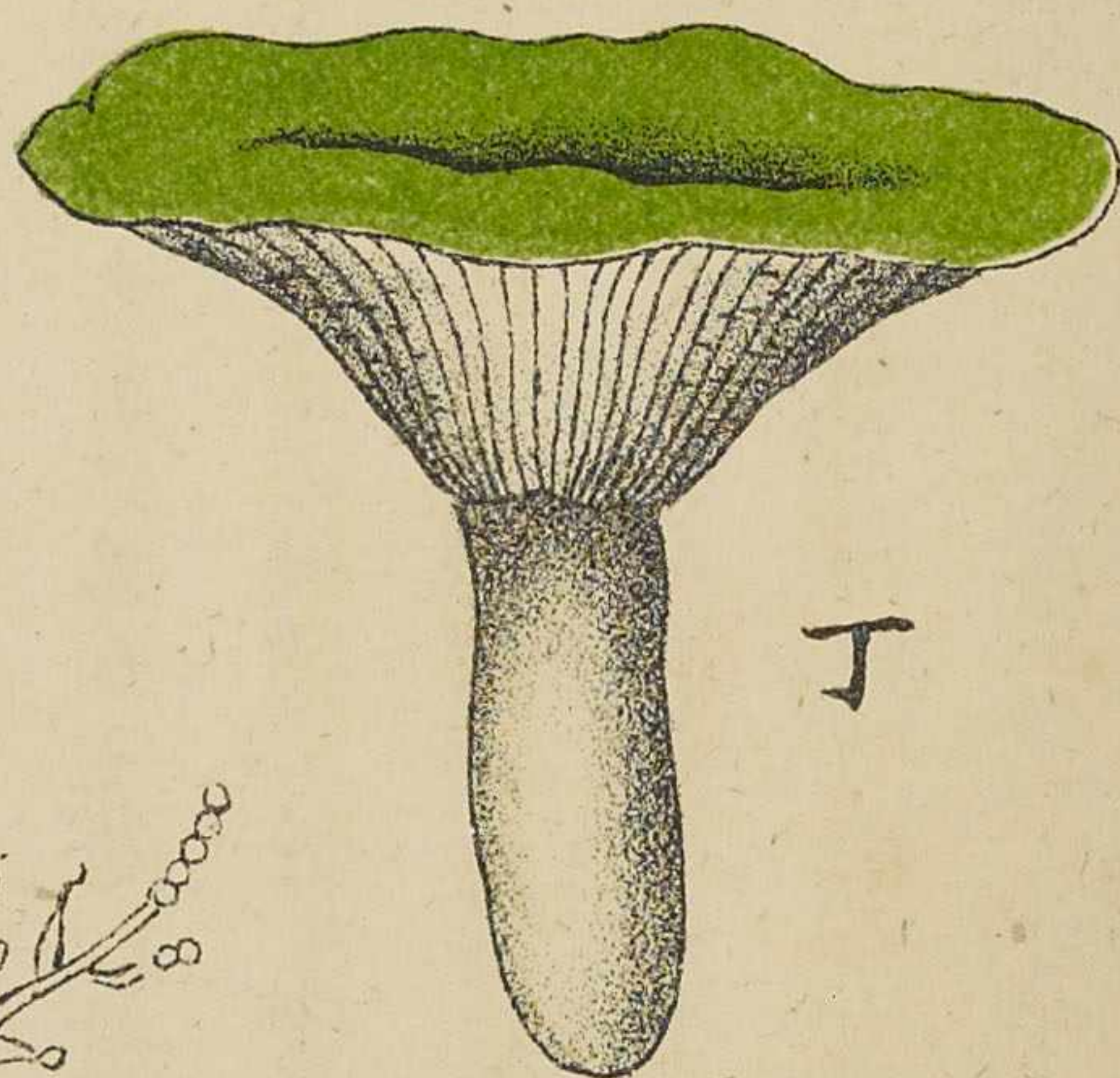
甲



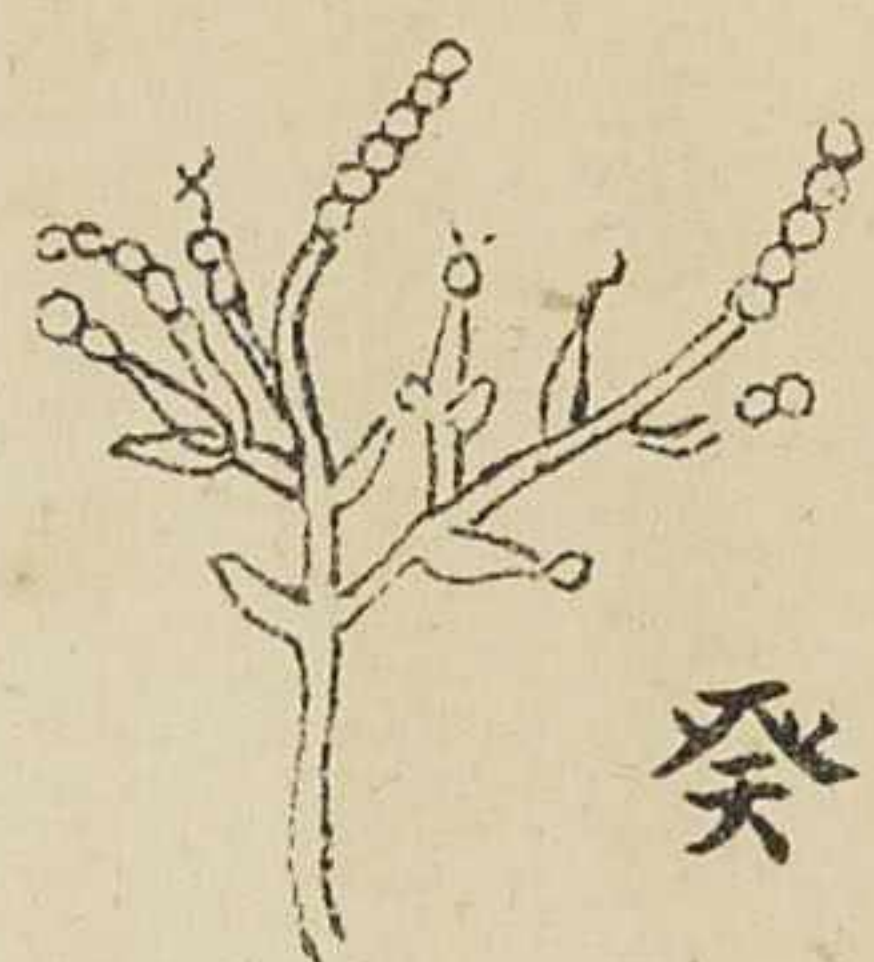
己



庚



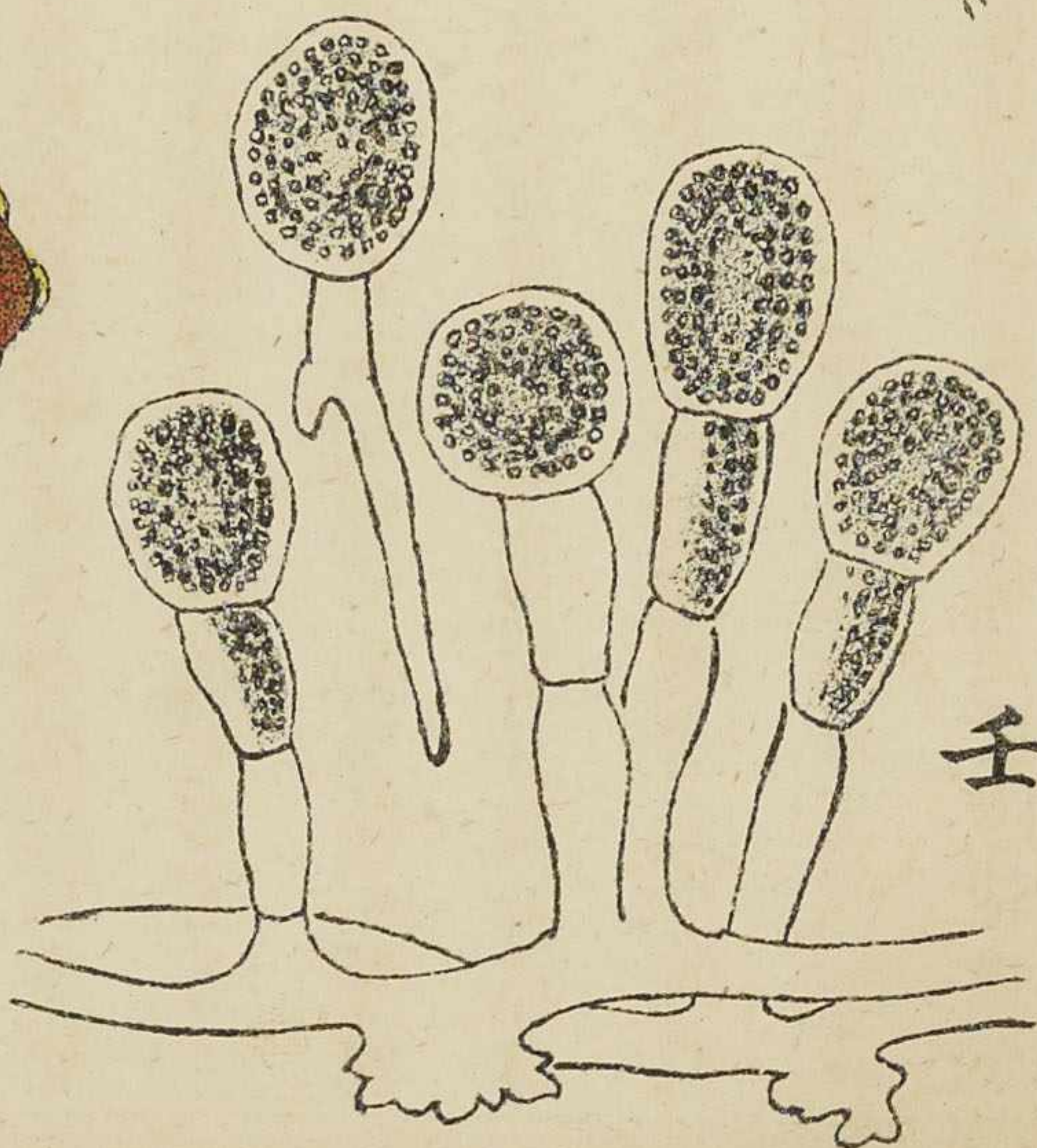
丁



癸



辛



壬



戊



穂で之に附ける黒色牛角状をなせるものは植物學家の所

が其の中で重なるものを申しませう



穂で之に附ける黒色牛角状をなせるものは植物學家の所

謂グラウ井チエプス、プルプレアにして麥角と譯しま

す頗る有毒のものでありますエウロツパでは數百年前迄

は頗る農業が疎漏であつて此の茸の附いたまゝで麥を喰

ひ其毒に中たりしもの少なからざりしが學問が進歩する

に従ひ其病氣が麥角より來ると云ふことが分り麥角の附

いた麥は取り棄てるやうになりました日本に於ては此茸

が幸に少ない其れは向ふの農業はコチラのよりは疎漏で

草が生えても構はないで蒔いてから收納まで決して草を

取るなどと云ふことは無い其れ故に蔓延しやすいが日本

の百姓は蒔附けから收納まで再三草を取り丁寧でありま

すから幸に蔓延をまませぬ

圖中癸は植物學者の所謂イサリヤ、パンシーと稱ふる菌に

して蠶に附着するものでありますこれに由て生起する蠶

病を「ざり」と稱へ顯微鏡で之を照視すれを略ぼ樹木に實

を結びたる觀を呈します斯の如きことを長く述べては諸

君の御退屈を招きますあら有毒の植物に移ります

毒草類は随分澤山ありまして一朝一夕には申されませぬ

が其の中で重もなるものを申しませう

これは煙草であります諸君は御存じで有りませうこれは

毒物で嘗てフランス人が自分の妻を毒殺しやうと思つて

居りましたがフランスなどは裁判化學が開けて居ります

から人の毒と知て居る物で毒殺すると忽ち發覺するのを

恐れ人の知らぬものでやろうと思つて試しに煙草を犬か

兎ふ飲ましたところが死んだと云ふので妻ふ飲まして殺

したと云ふことであります其の後ち毒の物質を含んで居

ると云ふことが分りました爰ふ褐色の汁がありますこれ

は煙草の毒でニコチンと云ひますこれは大きな犬でも二

滴なら死しました人間でも四滴なら請合て死にます

其れで煙草を飲むのハ毒かドウかと云ふと毒で無いとは

言はれませぬ彼のニコチンは煙草をもやすの際過半燃去

すれどもチアン、アンモニウム、流化アンモニウム、硫化

水素等の如き有毒の物質が出來煙草の煙ふ伴ふて多少人

體中ふ這入るものであります併し煙草には慣れますもの

で酒でも初めは少し飲んでも酩酊しますがままひに二三

四升も飲めますやうになります煙草でも初めてお飲みふ



なるお方は眩暈をしたり頭痛を起したりムナサハギを  
たり身體が戦慄をしますが段々と構はずに飲んで居る内  
小慣れてしまつて感じが無いやうになります併し小さな  
煙管でいさのみ害がありませんが巻煙草は害になります  
度を過すときハ身體不隨になつたり痛みを起して忽然と  
倒れる例が間々ありますから飲みにならぬ方が宜し  
い

これは漢名を木本黃精葉釣吻と云ひ俗に毒ウツギと云ひ  
函根伊豆などに多くありコリアミルチンと云ふ頗る有毒  
の物質を含み大人は其毒なることを心得て居りますが子  
供などにはこの實が赤くなるとうまそふに見へ氣なしに  
喰ふと云ふことがあるから人家近き所に置かぬがよい  
極あぶないヤツは此の馬酔木と云ふものでラテン語でア  
ンドロメダ、ヤポニカまた俗語でアセボ、ウマクハズ、ウ  
シクハズと云ひましてチョイトは槭樹たうだんに似て居ります此  
木の毒に當りたることは是迄官報や衛生の報告に度々出  
ました此の葉を五枚ばかり煎じて兎小飲ませると死にま  
す外の毒物は多くは臭や味がありませんから直に其異物た

ることが分かりますが「アセボ」には殆んど味がありませ  
ぬから人を毒殺するには至極妙であります注意せねばな  
らぬ斯く申すと小供に智慧を付け人に毒殺を教ゆるやう  
小思はれますが昔は毒殺は分りませぬだつたが今では變  
死の屍體を分析すれば直に分りますから決して毒殺は出來  
ませぬ

マダ色々毒草類も有りまするがモウ一ツ二ツ申上げませ  
う此の麻も随分毒であります殊小熱帯地方小栽培したる  
ものは毒が強くなります此種をガンモドキ等ニ入レテ喰  
ふ人を見ましたが能々注意せねをなりませぬ

これは俗にカブトギクと稱えラテン語でアコニチウムと  
云ひます此の根でも葉でも極て毒であります東京に於て  
處々庭園に見受けますがこれは栽培しないやうにせねば  
なりませぬ

アマリつまらぬことばかりで諸君が御退屈であります  
から今日はこれだけに致しませう

○

明治今日の記事



す外の毒物は多くは臭や味がありますから直に其異物た

明治今日の文章

東京高等女學校教諭 中邨秋香

此篇は日本文章會誌の爲めに起草せしものなれど、かの會誌いまだ發兌のはこびふ至らざるをもて、先貴社に寄稿して世に問ふこととはなしたるなり、

吾邦今日の如く學事の盛なる事は、古來曾て其ためしを知らず、されど、今日の如く文章の亂れたるも、亦古來さらふ其たぐひを見ず、れもふ小學事の盛なるは、却て文章の亂る、端となり、文章の亂る、ふよりて、學事ますます盛なるが如き有様を見るにもやあらん、古今を分たず、文章の躰は、其人小依り又其道に依り、おのく其風ありて趣を異にするものなれども、全躰より之を論ずれば、古代の文は流暢にして品格あり、雅馴にして雜駁ならず、然る小今世の文はこれに反し、其弊最も雜駁に歸するが如し、畢竟雜駁なるをもて流暢ならず、雅馴ならず、また隨て品格をも失ふにやあらん、これ古代の文は概ね老練家の筆に成り、今世の文は多く書生の手に出づるが爲なりといはんか、されど、今の世老練家また其人に乏しからず、然らば世上の文章よしや書生の手に出づるもの多しとせん

も、其風は仍ほ老練家の躰に歸すべき筈なるに、却てかく一種の風をなし來たるものは、るもく其故なかるべしやは、何事に依らず時世につれて行はる、風はあやしきものにて、あながち理論にも本づかず、専ら其勢の赴く所によりて定まるものなり、維新の後小學校設置の令いで、文學の道各地に開け、隨て西洋の學術漸く廣く行はる、に及び、著書譯書の需め俄に世上に徧ねく、老練家の手に成るを仰ぐのみにては事足らぬ勢となりしより、著譯の業忽ち書生の間ふ起り、僅に和漢の文に通じ、略ぼ洋學を解する者ハ、相率つて操觚の業に従ふ事となりて、文躰漸く亂る、端を開きたり、又た此頃よりして新聞雜誌の類、やうく廣く世上に行はる、事となり、其文章は只管達意を主とし、只管達作を要するより、深く推敲をも經ず、或は漢文躰に、或は和文様に、又は反譯流に、小説風ふ、筆小任せてかきつゞり、躰裁を論ずれば隨分雜駁のものなれども、趣意を載するふは甚便利ふして、且誰にも綴りやすく、しかも其流暢ならざる所、雅馴ならざる所、品格を失ふ所、たましく俗情に適する所もあり、かたゞ、



世上の文牀は老練家の文章如何を問はず、忽にして此雜駁なる一種の風に赴き去れり、「そもく少年文思いまだ熟せず、文牀いまだ定まらざる時にありては、韓柳文を讀めむ、韓柳文の句調忽ち心にうつり、徒然草を見れば、徒然草の語氣徑ちに唇にのぼり、文をつゝるに臨み、此彼の語氣句調、互に入りまじりて筆にあらはるゝならひあり、これより漸く修練し、曾て熟讀したる各種の文牀風格、普く腦漿中に浸み入り、融解混和し、全く自己の材料となるに及び、構思の際、其材料縱横自在に活き、わが句調となりわが語氣となりて稿にのぼるに至り、自家の文牀始めて定まるものとぞきく、今の世文筆の業に従ふ者、往々年少の人に於て、此人々の此業に従はんには、洋學に、和漢學に、一と通りは心得ざるべからずして、之を心得んには隨分の歳月を費さるべからず、さるに、其年猶ほ少壯の事なれば、たとへ其間いばかりの苦學をなしたらんにも、文章の上にて十分の鍛鍊を成すべき月日なからんは、當然の事なり、さらんには其文章に於て、猶ほいまだ自家の牀定まるの地に至らざるべきも、亦當然の事なら

ずや、況してかの一種の牀に於てハ、却て俗情ふ適するものありとするをや、此牀のますく盛ふ行はれて、操觚家いよく多く世ふ出づる者、おもふにこれが爲めの故にして、是即ち文章の亂るゝふよりて、學事ますます盛なるが如き形を粧ふものとぞいふべき、「それ文章は景情を載する器ふして、景情は時世ふ隨ひて移りかはるものなれば、文章も亦其景情ふ伴ひて變化せざるべからず、例へば藩翰譜の事情は、東鑑の文牀にては述べかたぐ、源氏物語の有様は、竹取物語の文牀にては記し得べからざるが如し、殊に西洋の制度文物俄に海内に洽く、人情風俗頗に前日と異りたる今日にては、文章の變化も亦おのづから甚しきものあるべきをや、されば紫式部新井白石をして今日に出で、親しく筆を執らしめんにも、今日の景情は源氏物語藩翰譜の文牀にては、もとより決して寫しがたかるべし、故に吾邦の文章今日の如く亂れたるも、前に述べたるものゝ外、尙ほ其原因あるべし、即ち今日の文章は今日の思想と有様とに應じ、何程か新様の語調をも加へざるべからざるを、世上一般の文學猶ほ幼稚にして、

かく頗に變ぜし時世に伴ひて、適宜の變化をなす能はざ

起らざらん限りは、吾邦の文章見るに足らざるはいふま



自家の躰定まるの地に至らざるべきも、亦當然の事なら

るべからざるとなるを、世上一般の文學猶ほ幼稚にして、

かく頃々に變ぜし時世に伴ひて、適宜の變化をなす能はざる事是なり、すでに古來の文體にも倣ふべからず、又適宜の變化をもなすあたはず、ここに於て其勢已むを得ず、かくあやしき一種の風をば生じ來たりしにて、言ひ換ふれば、時世に伴ひて拙く變ぜしなり、されど世上の文學は今日漸く生長せり、即ち近來世上一般、此一種の文體に稍倦みたる色ありて、他に變せん事を求むるものゝ如く、また之を求むれども其方針を得ずして躊躇するものゝ如き有様ある者は其兆候にあらずや、さあらんには今日の勢に乗じて、この文體を匡正し、専ら古文の流暢に倣ひて、陳腐に失せず、自在に今日の景情を寫して、雜駁に陥らず、漢語はさらなり、洋語といはんも儘文中に挿用して、尙其雅馴品格古文に譲らざるが如き、時世適當の文章を起しだいさん事、難きにあらず、勢の赴く所は、意外の事すら行はるゝものなるを、況して此事の如きは理論の上にて於ても、もとよりさるべきものなるをや、吾が文壇の諸老をばじめ、すべて世の文章の事に従ふ諸氏よ、冀くは深くここに察する所あらん事を、畢竟この時世適當の文章

起らざらん限りは、吾邦の文章見るに足らざるはいふまでもなく、かの學事の如きも、亦隨て眞の旺盛をば期し得べからざらんをや、

○

理學者ノ快樂

理科大學教授 櫻井 錠二

快樂ト言フコハ銘々ノ考ニ依テ異ナルモノニシテ或ハ苦心節儉ニヨツテ金持ニナルコトヲ快樂トナシ或ハ貧人ヲ憫シテ之レニ金錢物品ヲ施コスヲ以テ快樂トナシ或ハ戰爭議論ニ打勝テ快樂トナシ或ハ機ニ投シテ金儲ヲスルヲ以テ快樂トナス等人々ノ快樂トナスノキ事柄ハ種々様々ニシテ之レヲ枚擧スルコト能ハスト雖凡テ善キ事ヲ爲セハ最モ高尚ナル快樂ヲ自身ニ感スルモノナリ理學者ノ以テ快樂トナスヘキモノハ何ナルヤ今此ノ問題ヲ解カントスルニ先チ理學トハ如何ナルモノ理學者トハ如何ナル人物ヲ指スカト云ヘルコトニ就キ余ノ思フ所ヲ開陳セント欲ス

理學ト云ヘル學問ハ世人ニヨツテ甚々誤解サレテ居ル様



ニ思ハル、ナリ理學トサヘ言ヘハ非常ニ記憶力ヲ要スモ  
ノ、様ニ考ヘ草木ノ名ヲ覺ユルヲ以テ植物學トナシ星ノ  
數其ノ大キサ等ヲ譜記スルヲ以テ天文學トナシ化學上ノ  
記號、式等ヲ記憶スレハ即チ化學ヲ修メタリトナシ理學  
ハ六ヶ敷キ名稱ト意味ノ解シ難キ事柄ヨリ成立ツモノニ  
シテ實益ノナキモノナリナト、ハ世人ノ常ニ稱フルトコ  
ロナリ或ハ稀レニ其ノ必要ヲ説クモノアルモ理學ハ實ニ  
奇異ナルモノニシテ如何ナル不思議モ理學ヲ學ヘハ悉ク  
之レヲ解スルコトノ出來ル様ニ考ヘ其學修スルノ法方或ハ  
之レヲ教授スルノ法方ハ少シモ意ニセス余カ子息ノ行ク  
學校ニハ理學ノ課目アリ誠ニ結構ナルコトナリナト、言フ  
カ如シ  
理學ハ知識ト言ヘルコト同意味ニシテ通常吾人カ知識ヲ  
得ルトコロノモノハ即チ理學ノ法ニヨルモノナリ例ヘハ  
茲ニ一個ノ石アリ如何シテ余ハ之レヲ石ナリトスルカ曰  
ク從來ノ經驗ニヨレハ余カ眼ニ觸レ手ニ觸レルトコロノ  
物体中ニ一種普通ノ性質ヲ備ヘ（例ヘハ堅クシテ容易ニ  
碎ケス又一種ノ色ヲ有スル等）其ノ通性ニヨツテ之レヲ

他ノ物体ヨリ區別シテ石ト總稱スルトコロノモノアリ今  
茲ニアル物体ヲ石ナリト知ルハ從來石ト呼ビ來リシモノ  
、如ク其通性ヲ備フレハナリ

然リト雖モ石ハ悉ク同シカラス其大キサ、色、形チ、堅サ  
ノ度等ニヨツテ大ナル差アリ此大ナル差アルニモ係ラス  
之レヲ一纏メニシテ石ト總稱スルハ是レト他ノ物体トハ  
異ナルトコロ大ニシテ似タルトコロ小ナルノミナラス石  
ト石ノ相似タルトコロハ大ニシテ異ナルトコロ小ナレハ  
ナリ或ハ動物中ノ直立シテ步行シ意ヲ備ヘ道德心ヲ有ス  
ルモノハ其性質ニ無慮ノ差異アルニモ係ラス之レヲ總稱  
シテ人ト呼ビ又四足ノ動物ニシテ長キ面ト耳ヲ持チ人間  
ヨリ身体大ニシテ善ク走ルモノハ馬ト言フカ如シ而シテ  
甲ヲ人ト言ヒ乙ヲ馬ト稱フルハ元々斯ノ如キ思想ニ基キ  
タルモノナレモ久シキ間ノ經驗ニヨリテ人ニハ一種ノ外  
觀アリ馬ニモ亦一種ノ外觀アルコトヲ曉リ以テ睡眠シタル  
人ヲ見テモ矢張人ト知り繫カレタル馬ヲ見テモ矢張馬ト  
知ルニ至レリ  
吾人ノ有スル所ノ知識ハ凡テ右ノ如キ法方ニヨツテ得タ

ル者ニ今其方法ヲ分析スレハ數多ノ物体、或ハ事實、或

ナルカ通常吾人ハ生人形ト眞ノ人ヲ間違ヘサルハ其區別



碎ケス又一種ノ色ヲ有スル等）其ノ通性ニヨツテ之レヲ

吾人ノ有スル所ノ知識ハ凡テ右ノ如キ法方ニヨツテ得タ

ル者ニシテ其方法ヲ分析スレハ數多ノ物体、或ハ事實、或ハ思想、或ハ現象ヲ比較ノ其相異ナルトコロト相似タルトコロヲ研究シ大同小異ニヨツテ之レヲ分類スルニアルナリ此レ即チ理學ノ法方ニシテ確實ナル知識ヲ得ルノ道ナリ

我知識ハ元々右ニ述フルカ如キ方法ニ由テ得タルモノナルカ之ヲ應用スルニ當テハ事物ノ外觀ニヨツテ判斷スルコト常ナルヲ以テ吾人ノ普通ノ知識ハ至極漠然タルモノニシテ誤リニ落入ルコト間々アリ例ヘハ茲ニ生人形アリ其製作甚タ精巧ニシテ眞二人ノ如ク見ヘ之レニ加フルニ其衣裝ハ時ト場所ニ恰好スル者トセハ之レヲ只一見スルモノハ多分眞ノ人ナリト思フヘシ併シナカラ若シ之ニ近ツキテ其呼吸スルヤ否ヲ觀察シ其体ニ骨肉アルヤ否温アルヤ否等ノ事ヲ實驗シ而シテ其觀察并ニ實驗ノ結果ヲ從來ノ經驗ニ照ラシテ推察ヲ下セハ其人ニアラサルコトヲ知ルニ至ルヘシ是レ即チ理學上ノ研究ニシテ之レニ由テ初メテ確實ナル知識ヲ得タルナリ  
右ノ一例ハ事ノ解シ易キヲ旨トセシヲ以テ擧ケタルモノ

ナルカ通常吾人ハ生人形ト眞ノ人ヲ間違ヘサルハ其區別ノ簡單ナルト又知ラス識ラス理學ノ法ニヨツテ之レヲ判斷スルトニ由ルナリ然リト雖モ繁雜ナル事物或ハ現象ニ至ツテハ理學的ニ之レヲ研究セサレハ確實ナル知識ヲ得ルコト能ハサルナリ是レ社會（理）學、政治（理）學、法（理）學、心（理）學等ノ起リシ所以ニアラスヤ

右ニ理學ト述ヘシハ其意味ノ最モ廣キモノヲ言ヒタルコトニシテ通常理學ト言ヘハ Physical Science 或ハ Material Science ヲ意味スルナリ之レヲ譯スレハ物体理學トテモ言フヘシ即數學、物理學、化學、天文學、地質學、地震學、植物學、動物學、生理學等ヲ含有スルモノナリ是等ノ諸學科ハ物体并ニ其運動及ヒ變遷ヨリ生スル諸般ノ現象ヲ右ニ述ヘタル觀察、實驗、并ニ推察法ニ依テ研究スルトコロノ學問ナレハ其材料ハ天ニ地ニ海ニ陸ニアリ且ツ研究スルトコロノ事物ハ人心或ハ社會ノ現象ニ關スル處口ノ事柄ヨリ遙ニ簡單ナルヲ以テ前ニ述ヘタルカ如キ確實ナル知識ヲ得ルノ法方ヲ練習スルニ最モ適セリ是レ即チ普通教育ニ物体理學ノ必要ナル所以ニシテ政治家ニマレ法律家



ニマレ軍人ニマレ商人ニマレ工業家ニマレ農業家ニマレ  
凡テ國民タルノ義務ヲ能ク盡サント欲スルモノハ其ノ少  
年ノ時ニ於テ理學上ノ思想ヲ充分發育シ理學ノ法方ヲ充  
分練習スレハ後日ニ至テ其成業ヲ助クルコト尠少ニ非ラサ  
ルヘシトハ余ノ深ク信スルトコロナリ

然ルニ世ニ理學ヲ無益トスル者アルハ何故ソ其理由ノ一  
ハ世人ノ之レヲ誤解スルニアリト雖モ又一ツニハ理學ヲ  
授クルノ法方其宜キヲ得サルニアルナルヘシ理學ノ教師  
ハ教師タルモノニアラサルナリ生徒ト與ニ理學ノ學生タ  
ルヘシ而シテ其先達トシテ知識ヲ得ルノ道ヲ案内スヘシ  
何ソ他人ノ得タル知識ヲノミ之レ授ケン教師ハ其生徒ヲ  
シテ理學ノ字書ヲラシメスシテ眞ノ知識ヲ得サシメ且ツ  
之ヲ得ルノ法方ヲ練習セシムヘシ如斯スルトキハ生徒ハ  
自然ニ其面白味ヲ感シ自身ニ進ンテ益知識ヲ得ンコトヲ欲  
スルニ至ルナリ我邦普通教育ニ理學ノ設ケアルハ幸ナリ  
宜シク之レヲ利用シテ我國民ノ知識ヲ發達セシムルノ實  
アラント希望ニ堪ヘス

以上理學ハ普通教育ノ一大要具ナルコトヲ述ヘ併セテ其教

ヲ以テ地球ノ周圍ヲ廻轉スルモノトセシニアラスヤ此レ

師ノ要務ヲ指示セシカ眼ヲ轉シテ理學ヲ專究スルトコロ  
ノ事業ニツキテ一言センニ理學ハ其普通ナルト專門ナル  
トニ係ハラズ矢張理學ナリ之レヲ研究スルノ方法ハ全ク  
前ニ述ヘタルト同一ニシテ觀察、實驗、推察ノ法ニヨル者  
ナリ何ソ草木ノ名ヲ覺ユルヲ植物學ト言ハン天体ノ數并  
ニ其大キサ等ヲ譜記シ或ハ從來記載セルトコロノ日蝕月  
蝕ノ度數年月等ヲ記臆スルヲ天文學ト言ハン普通教育ニ  
在テハ知識ヲ發達スルノ方法ヲ主眼トスレモ專門ノ學科  
ニ於テハ之レヲ應用シテ益々我知識ヲ增進スルヲ務メス  
ンハアラス其事業タルヤ實ニ容易ニアラス天地ノ間ニ存  
在セルトコロノ諸般ノ事物、コ、ニ顯ハル、トコロノ諸  
般ノ現象ハ簡單ニシテ簡單ナラス複雑ニシテ複雑ナラス  
美ニシテ用ナキカ如ク用アツテ美ナラサルカ如ク學者ノ  
研究ニ一種言フヘカラサルトコロノ高尚ナル材料タリ之  
レヲ觀察シテ實驗ヲ施シテ再度之レヲ確カメテ是レト他  
ノ事實トノ關係ヲ講究シ以テ漸ク其意味ヲ解スルニ至ル  
ヘシ天文學、物理學、化學、動植物學等今日ノ盛大ニ至リ  
タルハ凡テ斯ノ如キ研究ノ結果ニ由ル者ナリ昔シハ太陽

ヲ來タシ美ヲ増セモ何ナル時ニ至テ其成功ヲ見ルヘキヤ



以上理學ハ普通教育ノ一大要具ナルヲ述ヘ併セテ其教

タルハ凡テ斯ノ如キ研究ノ結果ニ由ル者ナリ昔シハ太陽

ヲ以テ地球ノ周圍ヲ廻轉スルモノトセシニアラスヤ此レ  
外觀ヨリ得タル知識ニシテ生人形ヲ眞ノ人ナリト見誤リ  
タルニ等シ此現象ニツキテ今日吾人ノ所有スルトコロノ  
知識ハ尙ホ完全無缺ノ知識ト言フニアラス然リト雖モ今  
日マテ天文學者ノ觀察及ヒ研究ニヨリテ蒐集セシトコロ  
ノ事實ハ悉ク右ノ思想ニ符合シ未タ一モ之レニ反スルト  
コロノ事實ヲ發見セサルノミナラス之レニ基キテ計算ヲ  
立ツレハ善ク日蝕月蝕ノ如キ天体ニ關スル現象ヲ豫知ス  
ルヲ得ルニアラスヤ

右ノ如キ數多ノ事實ヲ取り纏ムルトコロノ思想ノ發見ハ  
理學ノ最モ高尚ナル結果ニシテ容易ニ之レヲ爲スヘカラ  
スト雖モ如斯基發見トテモ一時ノ出來事ニアラス數百年  
間ノ觀察或ハ實驗ニヨツテ得タル結果ヲ比較シ諸方ヨリ  
之レヲ研究シテ遂ニ一ツノ法則トナシタルモノナリ理學  
者ハ悉クニュートントタルヲ得ズケプレルタルヲ得スダ  
ウインタルヲ得サルナリ然リト雖モ眞ノ理學家ハ知識ノ  
増進者タリ知識城ヲ建築シ之レヲ完全ナラシメ之レニ美  
ヲ加フルトコロノ職人ナリ此盛大ナル城ハ日ニ月ニ完全

ヲ來タシ美ヲ増セ何ナル時ニ至テ其成功ヲ見ルヘキヤ  
此城成功ヲ遂クレハ理學ハ不用トナルノミ理學者ノ快樂  
トハ自身ノ研究ニヨリテ世界ノ知識ヲ増進シ即チ知識城  
ノ職人タルノ榮位置ニ立チ得ルヲ言フナリ此レ眞ノ理  
學者ノ以テ最上ノ榮譽且ツ快樂トナストコロナリ

理學研究ノ事ハ己ニ述ヘタル如ク觀察、實驗、及ビ推察ノ  
法ニ依テ之レヲ行フモノナルカ其艱難實ニ大ナリトス然  
レモ一ト度コノ艱難ニ打勝チテ一ツノ研究ヲ仕遂ルニ於  
テハ其快樂亦實ニ大ナリトス而シテ其美味實ニ忘ル、能  
ハス此レニヨリテ益々勇氣ヲ得尙ホ進シテ他ノ研究ニ從  
事シ一層大ナル艱難ニ打勝ントスルノ念ヲ生ス而シテ其  
艱難益々大ニシテ之レヨリ得ルトコロノ快樂モ亦タ益々  
大ナリトス重大ナル發見ハ皆ナ之レヲ求メントシテ得タ  
ルモノニアラス眞理ヲ戀慕シ且ツ之ヲ敬愛スルノ赤心ヨ  
リ生シタルモノニシテ寓然ノ出來事ト言テ可ナリ  
終リニ於テ尙一言セント欲ス抑モ理學者ノ得ルトコロノ  
快樂ハ他ノ快樂ト其性質ヲ異ニスルアリ俗人ノ快樂ニ  
ハ必ス其ノ裏ナカルヘカラス勝者アレハ敗者アリ益スル



モノアレハ失スルモノアリ結構悦フモノアレハ恨ムモノ  
 アラルサヲ得ス理學ノ研究ハ之レヲ恨ミトスルモノ一人  
 モナキ而已ナラス世界ノ知識ヲ増進スルトコロノモノナ  
 レハ當局ノ研究者ハ勿論世人一般ノ幸福ヲ來タスモノナ  
 リ宇内ノ密事ヲ探クリ之レヲ利用シテ我開明ノ度ヲ上進  
 スルニ於テ誰レカ之レヲ恨ミトスルモノアラン

○

アイノの名

大學院 坪井正五郎

アイノは子供が生れても直に名を付ける事は致しませ  
 ん、初の程は赤兒子供杯云ふ語に對する稱を以て呼び通  
 例一二歳に成てから名を定めます、之には行末の幸福を  
 祈て定めるのと子供の爲したる行又ハ其体に就きたる事  
 に因て定めるのがござります、其例を舉げれば左の通  
 り、

コリカトク、之は男の名で善き事に進むと云ふ意、  
 ペンリウク、之も男の名で善き物を取ると云ふ意、  
 コノントルバ、男の名、話し達者の意、  
 チャリサンゲ、男の名、辨論慥の意、

イタツクヌンゲ、男の名、言葉を撰むの意、  
 イタツカネ、男の名、口達者の意、  
 ハヲラリ、男の名、聲高しの意、小兒の時大聲で泣いたか  
 ら斯く云ふとの事、

カモイツサアニ、男の名、神の繩下るの意、熊祭の時熊の  
 首へ付ける繩を持たから斯く云ふとの事、

ムシヤ、男の名、撫るの意、小兒の時可愛がつて撫たから  
 斯く云ふとの事、

イキシマグル、男の名、捕へる人の意、

シレシッカ、女の名、多く産むの意、

アンネプキ、女の名、善く働くの意、

コユツケラシ、女の名、丈夫に立つの意、

男の名に口達者と云ふ意のが幾つも有るのはアイノ社會  
 にチャランケと云て議論をする事の行はれるのに因るの  
 でござります、病氣其他運の悪い事が有た時に全体名が  
 善くないからで有らうとて名を改める事は他の人民中に  
 も往々有る事でござりますがアイノも又之を致します、  
 男のアイノにシンナイレと云ふ名の者がござりましたが

此名の意味ハ別の名と云ふ事で悪き病に係た故元の名を

アニを鴨井豊治、ヌサンダルを二三五郎と云ふ類でござ



チャリサンゲ、男の名、辨論體の意、

男のアイノにシンナイレと云ふ名の者がござりましたが

此名の意味ハ別の名と云ふ事で悪き病に係た故元の名を止め別の名にしたとの義でござります、

又名が呼び悪ひ爲に改める事もござりますレイカンナと云ふ男アイノがござりましたが此名の意ハ名二度目と云ふ事でござります元の名が呼び悪くかつたから他の名を付けやうとしたが善い思ひ付きが無いので名二度目としたとの事

斯く様々に思ひ付いて名を付ける事故遠隔の地で暗合するは格別同村隣村に同名の人の有る事はござりません、又アイノは死んだ者の事を云ふのを極々嫌ひ其名を云ふ事さへも忌むのでござりますから先人の名を繼ぐ杯と云ふ事は決してござりません、

近頃では戸籍上の都合で和人風の名を與へたのもござりますますが元からアイノ名を持って居た者は多く自分の日本名を知らずに居ります、

アイノ名有る者に與へた日本名は全く元の名に縁の無いのも有り少しは音の近いのもござります、音の近い例はイサンベコロを伊三郎、コタチコロを小太郎、カモイツサ

アニを鴨井豊治、ヌサンブルを二三五郎と云ふ類でござります、追々に日本名が殖え全くアイノ名の無い者も多く成りますから終にハ前に申した様な名の付け方も無くなるでござりませう、交際の區域が狭ければ定まつた名が無くても濟む、稍廣く成れば此彼混雜を生ずる故符調が入用に成る、符調は區別の爲に付るもの故成丈違たのを撰む、此符調の定まつたのが名で有るがさうく別な思ひ付きも出ないから交際が廣くなれば隨て普通の名又ハ意味の無い名が出来始まる斯かる變遷を見るにはアイノの名も大に考の足しに成りますから一寸記しました、

○

此一編は矢田部氏が去る九月十一日東京高等女學校の始業に付其生徒一同に向ひ演述したる所を筆記したるものなり

女生徒の心得 理科大學教授 矢田部長吉

今日は諸教員も生徒も二ヶ月の休業中或は家に止まり或は旅行して充分に身体と精神とを保養したる後であり、又平常の業を始むるの日でありまして、身体も精神も長



き休暇を得て勢力を恢復し自ら活潑であり、殊に長く面會しなかつた人に又會ひまして相互に種々の話しも出来るのですから、自ら快樂を覺ゆる譯で、何となく喜ばしい芽出たい日でまします。

此芽出たい最初の日は最も肝要の日で、此日に於て各々本學年中は如何様に修業しなければならぬと云ふことを聡と心に定めて置かなくてはなりません。初めから聡と目的を定めて置かないと、萬事成就するとはござりませぬ。其故に今私が心付いたとの一二を皆様に申上げて置かうと思ひます。併しながら私の申さうと思つて居ることを既に篤とご承知の方もございませうが、斯様なれ方は私の云ふ所をお聞なされて、更に自分のお説を確にする譯ですから、尙宜しからうと思ひます。

諸先づ本年の入學試験を経て入學せられた方々に一言申しませう。此方々は本入學假入學を合せて總人員六十餘名でありまして、皆な本校へお出の前に數年間學問を修め教育を受けられたる方々ですが、更に進んで一層高等なる教育を受けやうと思つて此學校へお出になつたのは

勿論です。してみれば、初から充分に此目的を達する爲に腹をすゑて掛らなければなりません。近來は若い人が學校へ行くことが流行だから行くのだと思つて、學校は一種の遊び所のやうに心得て、學問の方は仕方なしにいよいよやして居るやうなことがあつては勿論なりません。充分に精神を込めて何處迄も學業を仕遂る覺悟がなければ、學校へ來ても何の役にも立ちませんから、斯様な心得の人があるなら、今日直に退校する方が増してあります。うしてあなたの方の中には決して今申す如きぶらぶら者のないとは私は百も承知でございませう。學業を仕遂ぐるには自分で物の理を考へて見やう、自分で研究して見やう、教師のみに依頼して居るまいと云ふ精神は實に肝要です。併しながら又間違つても何でもかまはずに我意を張り通さうと思ふ心は甚悪うございませう。教師の教ふる所は篤と聽問して能く之を理會するとは必要であります。且又當校へお出になつた以上は、知識のみを得やうと思つて居られては間違ひであります。知識の進むに従ひ、心掛も善くなり、行儀も善くなり、作法もよくなり、體質も善くなり、

何もかも善くなり、立派な婦人となることに心を用ひなく

心ながら申して置きます。



なる教育を受けやうと思つて此學校へお出になつたのは

なり、行儀も善くなり、作法もよくなり、體質も善くなり、

何もかも善くなり、立派な婦人となると心を用心なく  
てはなりません。生徒の學識も道德も進むやうにするの  
は教師の務めではありませんが、生徒が善く此に心を用ひ  
なければ、教師の盡力は何の役にも立ちませんから、ご銘  
々のお心掛がご銘々の教育の爲めに最も肝要であると言  
ふを一日一時も忘れてはなりません。

あなた方は既に數年間學校へ行かれた方々ですから、今  
改めて申すにも及びますまいが、當學校へお出の上は常  
に能く教師の命令を遵奉して、聊かたりとも教師小對し  
不敬がましきとのないやうにすると、授業時間前には必  
ず教室に入て居り此學科は今日はいやだから休すまう此  
教室へは少し時間が後れて行てもよからう杯と云ふ横着  
などの決してないやうにすると、さばご廻つて他人の勉  
強を妨ぐると噂話しとするとみここすりをするを杯は少  
しもないやうにするをハ初めよりご注意なされてご銘々  
の習慣となるやうにしなければなりません。此等のとを  
あなた方に對して私が心配いたすのは無用のととは存じ  
ますが、隨分他の學校に於て見たともありますから、老婆

心ながら申して置きます。

斯様にあなた方が當學校へお出になる初日から、生徒に  
ありさうな落度をいくつも想像して苦々しく申します  
と、何だかやかましい老爺であると言ふ評を得るの恐れ  
は澤山ありますが、畢竟私はあなた方が此學校に於て完  
全なる立派なるご婦人とならるゝを熱望するの餘り小  
申述ますと故、其心で罷聞き取を願ひます。

日本國中にて娘を持て居る人は幾百萬人あるか知りませ  
んが、此人々は皆其娘を本校の如き高等女學校へ遣る丈  
の資力があると申す譯には参りません。娘を高等學校へ  
遣るとの出来る人は誠に少ないものです。小學校へさへ  
娘を遣るとの出来ない父兄が甚多いものです。然るにあ  
なた方は天與の幸福を受けられて、立派なご父兄があつ  
て高い授業料を拂ひ其外種々の費用を掛けて本校へお出  
になるのハ誠に此上もなく結構なとであります。そして  
又あなた方のご父兄たる人が如何に立派な方であらう  
とも、あなた方を本校へ遣はさるゝのは、あなた方を愛せ  
られあなた方の將來の幸福を計らるゝからであります。



してみればあなた方が善い家に生れたるの幸福を無にせぬやうにし、あなた方のご父兄に對するの義務も亦決して忘れないやうにして、誰でも受るとの出来るものではない所の高等教育を受くるとは無上の幸であると云ふことを深く心に銘じて常に怠らないやうにせらるゝことを今日は別けてあなた方に希望いたします。

偕又前年より引續いて當校にお出になつて居らるゝ生徒方に對しては別に申すこともありませんが、學校の取締り方は年々に嚴重になりますから、是迄より一層ご注意なされてご銘々の學問教育に身を入れて、立派に卒業せられんことを希望いたします。且又本年以後は止むを得ざる事情あるものでなければ撰科を許しませんことにいたし、且つ撰科生には撰科卒業証書は渡しますが、卒業式場に於て本科生と一緒に之を渡すとは止めますから、其お心得でありたうございます。若しご自分の勝手にて撰科生となつて居らるゝ方がありますならば、改めて本科生となられんことを望みます。斯く本科生に重みを置きまする理由は、此學校の精心は成るべき丈完全なる教育を與

ふるにありまして、一科又は二三科を修むる生徒をわくとは眞の目的でありませぬからです。其故に止むを得ざる事情のあるとき且つ本科生を皆容れて尙教室に明きのあるときのみ撰科生を許すにいたしました。

最後に既に當校を卒業し尙進んで二三の學科を修めて居らるゝ方即ち級外生の方々に對して一言申す。此方々は卒業の後尙其足らざる學科を修めんが爲に當學校へお出になること故、云はゞ其學識と云ひ品行と云ひ他の生徒の手本となるべき人でありませぬから、猶更其學問と品行とに注意して、後進者に善き例を見するやうにしなればなりません。固より級外生中にハ自分の家に居てもつまらないから學校へ遊びかたがた行てみる杯と云ふに考への方は一人もありません譯はない筈であつて、又實際一人もありませんが、若し萬一斯様な人があつてハ後進者の爲めに甚だよくないことです。斯様な人は遊びが主で勉強が主でない、遊びが主ですから噂話しぶらつきを始め種々の善くないことが湧き出ます。善くないことが先進者として貴ばるゝ、人の間に湧き出ますと、後進者は其例に



る理由は、此學校の精心は成るべき丈完全なる教育を與

として貰はる、人の間に湧き出ますと、後進者は其例に

效ふやうになるのは自然の道理で、遂に學校全体へ非常の害を及ぼすやうになります。其故に向後卒業生の中に遊びかたがた當校へ來やうと云ふ人が出て來るとがあら

りませぬ。是も老婆心ではあります。事の未だ出來ざる前にご注意迄に申述て置くのであります。併し皆儲本日は不知不識面白くないのみ申述ました。併し皆なあなた方が善く聞き置き下さることを望む事柄であります。本年は文部省に於ても此學校の益々盛大ならんことを望まると見へ、去る七月の卒業式にハ大臣が自ら臨まれて有益なる演述がありました。是は此學校の設立以來始めてのとであります。且又去る八月は新校舎をも建築になりまして、教室の増したるのみならず理化學實驗室、博物標本室、書籍室が出來まして大に便利を増しました。文部大臣が斯く此學校に心を用ひらるれを、學校の教員吏員も亦益々盡力して學校の改良に従事しなければなりません。うして生徒の學問上道德上の進歩は生徒の榮譽父兄の榮譽たるのみならず、學校の教員吏員の

榮譽になるをですから、ご銘々が益々勉勵して、本校規則の始に掲ぐる如く優良にして有用なる婦人となるを勉められんを偏に希望いたします。

雜報

○大學通俗講談會 本期同會の會日及講師は左の如し

- 九月廿九日夜 岩谷立太郎 (冶金)
- 同 穗積陳重 (法)
- 十月七日晝 大澤謙二 (生理)
- 同 矢田部長吉 (植物)
- 十月廿日夜 關谷清景 (地震)
- 同 白石直治 (土木工)
- 十一月四日晝 村岡範爲馳 (物理)
- 同 藤澤利喜太郎 (數)
- 十一月十七日夜 和田垣謙三 (理財)
- 同 箕作佳吉 (動物)
- 十二月二日晝 小藤文次郎 (地質)
- 同 小金井良精 (解剖)



何れも大學教授の方々なれば其講談の面白くして有益なるは申すまでもなし本誌に於ても例に依りて其筆記を載ずるとを勉む可し演題は未だ確定せざれ共各其専門學科中の事項なるハ勿論なり聞く處に依れば關谷君は磐梯山破裂の顛末を講ぜらるゝとか同君は同事件電報達するや否や即日に出發され一ヶ月も同處に滞在し一時は中の湯の潰家の内に野宿されたる位なれば其講談は極々の實地談なる可し

○數學の教科書 新刊の幾何學教科書(英)の目錄は本誌第六十四號に載せたりしが其後代數學等の教科書も掲載せよとの請求有るに付き近頃發行の數學教科書中頗る善長と認むるものを左に記す

Paul Bert: First Elements of Experimental Geometry.

Chrystal: Algebra, Part I.

O. Smith: Algebra.

Knight and Hall: Algebra.

Lock: Trigonometry

Casey: Trigonometry.

大、小二種

大、小二種

大、小二種

大、小二種

Milne: Companion to Weekly Problem Papers. (雜論)

Lock: Arithmetic.

○寺尾壽氏算術教科書 の下巻が出版になりたり是にて此書完備す近頃此位の良書は日本のみならず西洋にも少かる可し數學に志す者は是非共一讀有る可し但し此書は決して易からず是其論ずる所精密に渉るを以てなり

○菊池大麓氏幾何學教科書 の上巻ハ出版に成りたり是れ氏が文部省の依托を受け二三年來英佛獨己刊の書は勿論之が爲に英國幾何學教授法改良協會の會員と爲り其未だ世に公にせざる書類をも參考して著されたるものなりと聞く而して其体裁は大に此までの數學書と異り西洋流に横に讀み且一語づゝ別たれたるは一大果斷なり

○佛國學術研究出張 佛國文部省は左の通り學術研究の爲め出張を命じたりジオルシ、マルチン氏ハ瑞典、那威へ教育學に關する事項取調の爲め、アンリ、メーチル、デストレー氏はスカンチナピアの山奥へ人類學に關する事項取調の爲め、工學者ガストン、アジェルヴ<sup>井</sup>ー氏ハ亞弗利加内部特にロヤウルバ河の谷の地理取調の爲め、

○新天文書 米國の有名なる天文學者ラングレー氏の新

を喚呼してこれが研究を望まれたるが此説の世に出づる



○新天文書 米國の有名なる天文學者ラングレー氏の新天文學と題する一書を著したり其新天文學とは是まで在來の天文書に多く天体の運動を論じたるに對し天体の成り立ち等を指すものなりと太陽の組織流星の新説等を委しく説き善良の書なる由吾輩は未だ之を見るの樂を得ざれ共歐米に於て頗る評判好しと云ふ

○スチュワルト氏 本邦にても其物理書にて名を知られたる有名なる物理學者スチュワルト氏の死したるは過日本誌にも載せたるが英國女皇は其未亡人へ年金五十鎊を賜りたり

○蓴菜に寄寓するバクテリア ジュンサイ 蓴菜の莖葉、萌芽に附着

せる粘液物に就きては本誌第八十二號に掲載せる伊藤篤太郎氏が詳細の論說によりて世人の知るところとなりたるが伊藤氏は該粘液研究の際、その内に無數のバクテリア存在するを發見せられたり此事たる衛生上、殊にバクテリア學に於て最も面白き關係を有するものなれを同氏は此バクテリアと蓴菜との關係に就き本年六月四日の時事新報に於て詳細論ぜられ猶バクテリア専門諸氏の注意

を喚呼してこれが研究を望まれたるが此説の世に出づるやバクテリア學を以て専門とせらるる醫科大學教授緒方正規氏は之を觀て最も面白き發見なりと思考せられ直に蓴菜を取寄せてその粘液を驗せられたるに果して數多のバクテリア繁殖せるを目撃せられたり其内にはバクテリアウムありバチルレンありミクロコッケンあり或ハスピルレンあり其品類一にして足らずと雖ども要するに就中最も面白きものは二種のバチルレンにして一は其狀大なりと雖どもその數少なく且散在せり然るに他の一は小にして巨多繁殖するの狀、恰かも純粹培養法によりて繁殖せしめたるものに似たり其形狀は彎曲、半月或は半環をなし又その大きは大抵平均一個の長徑三、四ミクレン、横徑〇、七ミクレンにして酷だ亞細亞虎列拉のコムマ、バチルレンに類似せり然れども此蓴菜のコムマ、バチルレンの純粹培養をなし生理的及病理的の試験を行ひし上ならば俄かに虎列拉病ノコムマ、バチルレンと同物なりとは確定し難く殊に從來本邦に於て夏月蓴菜を食用に供するに係らず未だ之より發病せしを聞かざるを以て觀れば



蓋し葦菜のコムマ、バチルレンは無害のものなるべしとの説は伊藤、緒方兩氏の同意するところなれども猶精密の研究を遂て其説を確定するに至るべしと云ふ又緒方氏が實驗の概略は今九月五日出版の東京醫學會雜誌に登録せるにより讀者就て觀らるべし

○螳螂亦能く小禽を捕獲す 北米合衆國 チャーレストン 府のアレキサンダー氏は ハンミング、ボルト 雀 米國ニ産スル小禽 に關する一奇談

を近來エリオット學會に報告せり曰く氏は一日庭際に鬱蒼として繁殖せる葡萄の叢間より微細なる叫聲の發するを聽き竊かに之を怪み行て之を窺ふに何か知らねど一羽の蜂雀、敵と頻りに奮撃し遂に敵の爲めに勝を制せられて殆んど危急の状なりしかば氏は先づ之を捕へて熟視するふ嗚呼憐むべしかの蜂雀は全く一螳螂の毒手に罹りてうの翼下、脇腹の邊に重傷を負ひたまはば何ぞ之に堪ゆるを得ん之が爲め翌朝遂に斃れたり云ふ

○生命保險 は心有る人の必契約す可きとなり此に壯年にして某事業に従事し若干の金を得て妻子を養ふ者有り此人無事に生命を保つ間は別に申分なければ共人の命ハ

ツ何時何如にして失ふまじき者にも非ず而してあとに残りたる妻子の忽飢渴にせまり或は親類の厄介と成り困らざり月日を送るに至るが情なけれ、此人にして若し生前より心掛て生命保險を爲し置たらんよは斯る不幸の有まじものを、西洋を以ては親が娘を嫁にやる前其婚に生命保險を爲さんとを請求する事有りと聞く誠に尤の次第なり本邦に於ても世祿の時代は別に(士族には)是が必要も無りしが制度の變化と共に又此保險の必要を感ずると出來遂に去る十四年明治生命保險會社の設立有りたり又其頃には共濟何々社なると類似の會社多く現はれたりしが元來保險には確實なる數學上の眞理有るものにして此理に基かずして保險の業を爲す能はざるものなれば類似會社は幾許もなくして盡く潰れ獨り明治生命保險會社のみ益隆盛に趣き現に保險契約人數は三千四百人にして保險金額は百八十一萬圓余なりと云ふ然れ共歐米の會社に比しては實に微々たるものなり是れ蓋し本邦の人未だ保險の性質を熟知せざると妻子に對する責任を重ぜざると親類のみならず他の厄介となるを恥とせざるに由るも

のにして嘆けかわしきとならずや、左に同會社の報告に

去る僅か數丁の地にあり幸に其山陰に位するを以て埋没



此人無事に生命を保つ間は別に申分なけれ共人の命ハイ

親類のみならず他の厄介となるを恥とせざるに由るも

のにして嘆けかわしきとならずや、左に同會社の報告に依り其三千四百余人の職業分けを掲げ以て讀者の一覽に供す

官	吏	四九六	醫	師	一六八	商	八〇六
海軍々人	九	調	藥	師	五	農	九五
陸軍々人	二一	教	員	一四八	工	一四二	
警察官	五一	學	生	二一	技	手	三八
郡	吏	八九	海	員	七〇	雜	業
議	員	四	新	聞	記	者	一四
教	導	職	二六	代	言	人	二〇
家	令	扶	七	筆	耕	八	
學	士	七	銀	行	會	六	九
			社	員	三		
合		計		三四二五			

但し此職業分けの分け方は全く感心仕らず

○磐梯山破壊部測量 帝國大學より派遣せられたる關谷理科大學教授、菊池同助教授、戸谷工學士の一行は七月三十一日より八月八日迄磐梯山の中の湯に宿泊し破裂口の測量及其他の研究に従事せられたり右中の湯は破裂口を

去る僅か數丁の地にあり幸に其山陰に位するを以て埋没は免れたるも疾風飛石の爲めに烈しく荒されたるが漸く半潰の茅屋一戸あるを見出し右一行は此處にて雨露を凌ぎたり扱右の測量を基として小磐梯山の破壊したる容積並に重量等を計算せられたる由にて昨今破裂全体に關する報告の發表ある手筈なりと古來内外各國にて往々火山爆發あるも或は引續き熔石を噴出し或は瓦斯蒸氣を發生して近づくべからざるものあり其他種々の故障ありて噴火口内を充分に測量すること能はず漸く其口徑を測るに止るもの多き由尤も彼の有名なる瓜哇島のクラカトア火山爆發の際に崩潰容積を算出せしことありしも測量器械等を用るにあらずして眞の概算止まりしが磐梯山の噴口は内部を跋渉すること甚難からず故に充分なる測量も出來たるは近來珍敷事なりとぞ

○ウオット氏化學辭書の新版 同辭書の始て世に出でたるは千八百六十三年にして已に二十五年の歳月を経たり而してウオット氏は第五卷の出版成るを以て一先づ筆を止めたるが化學の進歩日に月に盛んにして新材料の緊要



なるもの續々として發見されたるを以て同氏は更に其後編の出版に従事し千八百八十一年に於て大本四冊の「サツプレメント」を見るに至れり同辭書の化學者に莫大の實益と便利とを與へしとは今更言ふまでもなき次第にて人皆尙其續編の出版或ハ全卷の再版を待ち合へりウオット氏も之を再版に附する所存にて既に其業に取懸りしが惜かな同氏は千八百八十四年の六月三十日を以て病死せり茲に於て有名なるミューア及びモーレーの兩氏ハウオット氏ノ素志ヲ續ぎて同辭書の再版に従事し歐米有名の化學者并に物理學者の贊助を得て遂に本年三月を以て其第一卷を世に公にするに至れり今之れを通覽し且其緒言を一讀するに其全体は舊辭書と異なるをなしと雖も其改正増補の點に至ては實に有益なるもの多し其一例を舉ぐれば舊辭書に於て諸製造法分析法等の如き「ケミカル、アート」に關するものも最と細かに之を記述したるが新辭書に於ては是等の諸目は其大体を記載するに止りて「ケミカル、サイエンス」に關するものは漏らさず之を詳論したり殊に近來盛に研究さるところの物理法の如きは

著者の最も注意を用ひし所なり而して化學通論并に無機化學に係るものはミューアの擔當に屬し有機化學に係る者は悉くモーレー氏の擔當なり斯く分業せしは出版の期日を一日も速からしめんが爲めなりと言へり記者は此一大化學辭書の新版を祝し併せて著者兩氏の勞を謝す

○那須岳の噴煙及び地震 那須岳は古來噴火山なりしに一旦低止の景況なりしが近來一たび暴鳴噴煙の度を強くして以來愈々世に隠れなき活火山の一となれり小林審齋が那須舊事探に即ち下毛野國那須野の奥に高山あり雪不盡山と云又高湯山と云或は山形一重の茶臼に似たるに憑て茶臼ヶ嶽とも云總名は那須なりとあるもの是なり山麓温泉多し三度小屋湯本、北の湯、辨天の如きハ其重なるものにして夏月浴客年々益々多きを加へり然るに去月一たび磐梯山の噴火ありてより那須郡の人民も亦心中恐々安寧の日なし或ハ曰く磐梯山噴火ありてより却りて薄煙となり是地下相通ずる所以にして等しく覆没の災將に旦夕にあらんと或は曰く噴煙少しく血氣を交ふと或ハ曰く噴煙の場所少しく北方に傾けり與其他杞憂を抱くもの甚だ

多し是ふ於て太田原警察に於ては蘆野分署に通じて實地

上旬に至り始めて兩三回明に之を蘆野山より望むことを



したり殊に近來盛に研究さるゝところの物理法の如きは

煙の場所少しく北方に傾けりと其他杞憂を抱くもの甚だ

多し是ふ於て太田原警察に於ては蘆野分署に通じて實地噴煙の摸様を探らしめ且つ三度小屋温泉の如きは浴客を禁せりと聞く去る十二日蘆野分署より出張せる巡查等返る此日正午十二時那須郡地震す當地（予は近頃蘆野に寓す那須岳の西々南にあり那須山麓を去ること六里）の如きも震時恐らくは一分余なりしならん予は地震計を有せずと雖も机上に安置せる昆蟲湯殺瓶の湯の搬出するによりて其正しく震向の東西なることを知れり然るに昨十七日午前四時又地震す僅かに數秒の間なれども頗る急劇なりし且つ鳴動せり方位は概ね前者と類せり此故に人心益々恐々たり是を以て本年同山の浴客は最初は平生の半位もありしが日に其數を減じて昨今に至りてハ某浴場の如きは又一人の浴客なきに至れりと云ふ予思ふに去る十二日十七日兩度の地震は那須岳と必ず密接の關係を有するものならんと信ず如何となれば其方位の如き何れも殆ど東西ありしのみならず近頃同山噴煙は大に減少し且つ少しく噴煙の口を改めて低くなしたるハ事實なれをなり同山ハ六月以來雲に蔭はれて殆ど見るの日なかりしが本月

上旬に至り始めて兩三回明に之を蘆野山より望むことを得たり即ち十二日及昨十七日の如きも其山嶺を見ることが能はず十八日朝僅かに山頂のみを望見する事を得たり

（圖は略す）

右八月十八日附を以て在那須郡蘆野梅村甚太郎氏寄送

○樹上の家屋 今年は處々出水甚しく之が爲に堤防潰決して家屋財産の流失、人畜の死傷、作物の損害等は夥しきとなるが就中美濃國大垣地方は古來水害の最も多き土地柄にして殊に今年は三度までも大洪水に浸され其濛狀酸鼻に堪へざるものあり是まで同地方の人民は毎年夏期に至れば今や大雨洪水あらんかと居常恟々只管災害を免れんとをのみ祈り居る有様なるが最早今年の如き大洪水に逢ふては財産等の損害は倍置き何時生命を危くせんも計られず中々普通の家屋に安閑として住むべきにあらず曾て聞く安南暹羅とかにては河畔に住む人民ハ樹上に居を結び之に住ふ由我々も之に倣ふて生命の安全を計らんとす右樹上住居の構造は如何なるものなるや世の士人幸に教示を垂れよと美濃流浪生として投書ありたり



○美濃石灰 美濃國不破郡赤坂村金生山は古來良質の石灰石を産し地質學上にも頗る有益なる良田にして是まで地質學者が同地に赴き種々新奇の研究を爲したるとも度々なるが近來處々に「セメント」の製造及び鐵道の敷設起り爲めに需要の額頗る増加し加ふるに瀛車の便を藉りて運搬も至て容易なるを以て産出の量益々多きを加へ之に従事するもの數百名あり東京淺野「セメント」製造所等にも盛に之を用る由

○本社へ寄贈されたる書籍雜誌

氣象集誌 第七年第二號

大日本氣象會

神奈川縣教育會雜誌 第七號

神奈川縣教育會

愛知教育會雜誌 第十六號

愛知教育會

交詢雜誌 第三百四號より  
第三百六號まで

交詢社

學 第二號

江東義塾學會

文 第一卷第十號

金港堂

反省會雜誌 第九號第十號

反省會

教育評論 第一號

教育評論社

日本人 第十號より  
第十二號まで

政教社

第七回生命保險一覽票

明治生命保險會社

Botone (S.R.).— Electrical Instrument making for Amateurs. 2nd ed. Published by Whittaker & Co., London, 1888. 出版者

Solomons (Sir David).— Management of Accumulators and Private Electric Light Installations. 4th ed. Published by Whittaker & Co., London, 1888. 出版者

Thornton (John).— Elementary Physiography; published by Longmans, Green, & Co., London, 1888. 出版者

Furneaux (William S.).— Elementary Chemistry; published by Longmans, Green, & Co., London, 1888. 出版者

Cosmos. Nouvelle série No. 179. 出版者

雜 錄

○ 男女交際ノ作法 箕 作 佳 吉

左ニ掲ゲタル文ハ余ガ嘗テ某女學校ニ於テ爲シタル演

説ノ大略ナリ

子ト女子トノ間ニ大ナル差アリ男子ハ不品行ニシテ隨分



説ノ大略ナリ

余嘗テ或ル書物ニテ讀ミタルコアリ往時米國ニ人アリ其頃大審院長ノ役ヲ勤メ居タル某氏ノ許ニ來リ新ニ設立シタル一會社ノ株ヲ買ヒ入レンコトヲ勸メタルニ某氏答ヘテ曰ク若シ余ガ此會社ノ株ヲ所有セバ世人ハ必ズ余ガ賄賂トシテ之ヲ受ケタルナラント云フベシト其人曰ク縱ヘ世人ハ何ト云フモ實際然ルニアラザレバ何ゾ世評ニ懸念スルコトアラシヤト某氏曰ク否然ラズ余ノ位置ニ居ル者ハ不正ナルコトヲ爲スベカラザルハ勿論ノコト他ヨリ見テ不正ト誤解スルノ恐アル所業ヲモ亦謹マザルベカラズト實ニ公明正大ナル裁判官ノ言ト云フベシト事柄ハ異ナレモ彼ノ有名ナル Caesar's wife must be above suspicion (シーザルノ妻ニハ一點ノ疑ヲモ容ルベキ所アルベカラズ)ノ語ハ全種ノ思想ヨリ起リタルナリ

サテ婦女子ハ溫柔優美ニシテ其所爲思想共ニ純良高尚ナルベキガ故ニ若シ不幸ニモ一度世上ノ惡シキ評判ヲ受クルコトアレバ縱ヘ其評判ハ全ク無根ノ虛説ナリモ世人ハ何トナク穢レタルガ如クニ感ズルモノナリ此點ニ就テハ男

子ト女子トノ間ニ大ナル差アリ男子ハ不品行ニシテ隨分落チブレ世人ヨリ仕方ナキ奴ノ評ヲ受クルモ一朝悔悟シテ何ニテモ夫相應ノ事業ヲ眞面目ニ仕出ス時ハ世人モ前ノ過ヲ容捨シ自分モ自ラ重シズルノ心 (self-respect) ヲ恢復シ再ビ社會ノ中ニ立ツコトヲ得ルニ至ルナリ之ニ反シテ女子ハ一度醜行アル時ハ如何ニ悔ムルモ最早恢復ノ期ナク生涯日蔭ノ身トナリテ世ノ中ニ顔出シモ出來ザル事トナルナリ縱シヤ全ク無根ノ事ヲ云ヒ嘯サレタリトスルモ何トナク穢レタルガ如ク後ヨリ指ヲササレ恰モ透明ナル結晶ニ曇リノ起リタルガ如シ何故ニ社會ハ此ノ如ク男子ニ寛ニシテ女子ニ酷ナルヤ是ハ公平ナルヤ不公平ナルヤハ茲ニ論ズルニ及バズ何レニセヨ我邦ニテモ歐米ノ諸國ニテモ此ノ如キ事實アルコトハ疑フベカラザルナリ

婦人ノ名譽ハ此ノ如キ脆キモノナレバ何レノ社會ニテモ誰云フトナク自ラ定リタル法則アリテ社會ノ交際ヲ制シ婦人ヲ保護スル様ニナリ居ルナリ此法則ハ別ニ政府ヨリ發シタルニモ非ズ輿論ノ適宜ト認ムル所ヨリ自然落着セシモノナリ之ヲ守ル者ハ安全ニ暮スヲ得之ヲ犯ス者ハ政



府ノ法令ヲ破リタル者ト其苦ミ殆ント全シカルベシ是實ニ社會ノ秩序ヲ保チ家内ノ幸福ヲ全フスルニ欠クベカラザルノ要具ナリ而シテ此法則ノ嚴シサハ社會ノ進歩ト反對ナルモノナリ社會ノ程度低キ時ハ交際ノ法則究メテ究屈ニシテ東洋ノ或ル國ニテハ一般男女ノ交際ハ全ク之ヲ禁ズルノ姿ナルモノアリ之ニ反シテ社會ノ德義進ミタル國ニ於テハ男女ノ交際モ自然ニ盛ニシテ又此交際ヲ制スル法則モ寬ニシテ事足ルナリ歐米ノ諸國ノ如キ即チ是ナリ然レモ一口ニ歐米ト云ヘモ其歐米ノ中ニテモ大ナル差アリ例ヘバ佛國ニテハ輿論未婚ノ女子ヲ束縛スルコト頗ル酷ナリト聞ク英ニテハ較寬ニシテ米ニ至リテハ最モ寬ナリ此ノ如キトテ米ノ處女ハ不品行ナル者多ク佛ニハ品行方正ナル者而已ナリト云フベカラズ其究屈サノ度ハ國々社會ノ有様ニ從ヒ自然淘汰ノ理ニヨリテ定マルモノナリ然レモ最モ寬ナリト云フ米國ニテモ決シテ放擲トハ云フベカラズ余近頃同國ブリンモール女子大學校ノ事ヲ記シタル文中ニ男子ノ全校生徒ヲ訪問スルモノアレバ之ニ面會スルニハ豫メ設置セル應接室ニ於テ爲スベク且

○其校ノ老女必ズ其席ニアルベシト云ヘル規則アルヲ見タリ抑モ全校ハ米國女子大學校中最モ進ミタルモノニシテ男子ノジヨンスホプキンス大學校ニ比スベシ生徒ハ既ニ他ノ大學校ヲ卒業シ其年齡モ廿才以上ニシテ既ニ自ラ分別ノ付キタル貴婦人ナリ然ルニ世界中ニ男女交際最モ自由ナルノ評アル米國ニテ此ノ如ク最モ高キ教育ヲ受ケタル婦人ヲ束縛スルハ蓋シ其社會ニ行ハル、法則ニ從フノ要アレバナルベシ思フニ前ニ述ベタル大審院長ノ説ト全シ理由ニ出タルナルベシ

我邦ニテハ近頃マデハ女大學ヲ標準トシ男女ノ交際ハ甚ダ狹キ世ノ中ニテアリキ現今ニテモ其教ニ據リテ生長シタル者社會ノ大ナル部分ヲ占メ居ルナリ然ルニ他ノ變化ト共ニ男女交際ニ就キテノ思想モ急ニ一變シ稍歐米ノ社會ニ擬似スル様ニナリタリ就テハ女大學ハ既ニ陳腐ニ屬シタレモ交際ヲ制スベキ新ノ法則未ダ定マラズ現今ノ有様ヲ見ルニ急進ノ若キ男女ハ年長シタル者ハ今ノ形勢ヲ知ラズト輕蔑シ其言ニ意ヲ止メズ且ツ歐米社會ノ慣習ヲ誤解シ世界中男女ノ交際最モ自由ナリト評アル米國ニテ

モ許サミル所ヲ爲サントスルモノモアルニ至リソレガ爲

長ト誤解スベキ恐アル所爲ハ謹シマザル可ラズ



之ニ面會スルニハ豫メ設置セル應接室ニ於テ爲スベク且

誤解シ世界中男女ノ交際最モ自由ナリト評アル米國ニテ

モ許サミル所ヲ爲サントスルモノモアルニ至リソレガ爲  
 メ世人ニ惡評ヲ受クル者モ往々之アルガ如シ尤モ交際  
 ノ法則ハ種々ノ苦々シキ經驗アリタル上ニテ誰云フトナ  
 ク是々ノ事ハ人ガ爲サヌ様ニ云々ノ事ハ何人モ避クル様  
 ト云フトニナリテ次第々々ニ定マルモノナレバ現今不注  
 意ヨリ惡評ヲ受クル者ハ恰モ己ノ幸福ヲ社會ノ經驗ノ爲  
 メニ犧牲ニ供スルモノニシテ到底避ク可ラザル事ナルヤ  
 モ知ル可ラズト雖モ此ノ如キ不幸ヲ受クル者ハ成ル可ク  
 少ナク爲シ度モノナリ余ハ常ニ此事ヲ憂ヒ然ルベキ人出  
 テ今時ニ適シタル女大學ヲ著ハサバ大ニ若キ男女子ノ爲  
 ニ益スル所アルベシト信シ居ルナリ然レモ此ノ如キ著ノ  
 出ザルハ言ハズ語ラズ社會ニ浮ビ居ル法則ヲ結晶セシメ  
 テ一ノ書ヲナスノ難キニ因ルナルベシ  
 余ハ固ヨリ此ノ如キ重任ヲ負擔スルコトハ出來ザレモ近頃  
 余ガ胸中ニ浮ビタル二三ノ事ヲ述ベテ此演說ヲ終ラント  
 ス余ノ考ニテハ男女交際ノ原則ハ先ヅ左ノ如シト信ズ  
 男女ノ交際ハ優美高尚ニシテ正シカラザルコトアルベカ  
 ラザルハ勿論ノ事譬ヒ實際不良ニアラザルモ他人ノ不

良ト誤解スベキ恐アル所爲ハ謹シマザル可ラズ  
 此原則ニヨル時ハ歐米ニテ許ス所ナレバトテ一概ニナシ  
 テ宜シキト云フベカラズ我邦ノ現今ノ有様ニ照シテ遠慮  
 スベキコト多クアルベシ隨分究屈ナル事モアル可レモ如何  
 共爲スベカラス咎ムベキハ我開化ノ度ナリ  
 我邦ノ婦人ハ未ダ己ノ名譽ヲ保護スルノ術ニ熟セザル故  
 ニ男子ノ方ニテ不作法アルモ忍フベカラザルマデモ忍ブ  
 ト云フ處アレバ苟モ男子ニシテ自ラシエントルマン（紳  
 士）ト信ズル者ハ己ノ爲ス所ヨリシテ婦人ニ迷惑ヲカケ  
 ザル様常ニ此原則ヲ記臆シテ注意ノ上ニモ注意ヲ加フベ  
 シ折ニヨリテハ少シク外面ニテハ禮ヲ欠クガ如ク見ユル  
 コトアランモ其方反リテ親切ニシテ眞ノ紳士ノ名ニ背カザ  
 ルコトアルベシ  
 婦人特ニ年若キ婦人ニハ自分ニテ一行一爲ヲ謹ムベキハ  
 勿論ノコト其父兄母姉モ之ヲ保護スル様不絶注意スベキナ  
 リ而シテ上ノ原則ヲ常ニ心ニ留メ色々ノ事情起ルニ從ヒ  
 臨機應變ニ活用セバ大ニ得ル所アルベシト信ズ此原則ヨ  
 リ起ル細則二三ノ例ヲ舉レバ先ヅ左ノ如シ



一 婦人ハ男子而已居ル處ヲ訪問スベカラズ

若シ婦人男子ニ用事アルハ其父兄夫或ハ母ニ依頼シ

テ其事ヲ通セバ決シテ男子ヲ訪問スルノ要ナシ縱ハ

己ノ兄弟ト雖モ下宿家或ハ寄宿舍ニ居ルモノハ訪問ス

ベカラズ若シ是非共訪問スルノ要アレバ母或ハ其他ノ

保護人付キ添ヒ成ル可ク手重ニシテ往クベシ是トテモ

決シテ度々ナスベカラズ

箱根伊香保熱海ノ如キ温泉浴場ニ於テモ男子而已居ル

部屋ヘハ婦人ハ行クベカラズ

一 若キ男子ガ特ニ若キ婦人ヲ訪問スルハ現今ノ有様ニテ

ハ憚ルベシ又縦ヘ訪問スルノ要起ルモ年長シタル保護

婦人ノ前ニテ談話スベシ

一 若キ婦人若シ多人數ノ集リ居ル席ニ出ル時ハ父母、姉、

朋友或ハ其他相當ナル保護婦人ト共ニ至ルベシ

一 結婚ノ約束整ヒタル男女ハ相互ノ交際ヲ一層注意スベ

シ唯二人ニテ他出或ハ旅行スル杯ノ事ハ憚ルベシ現今

社會ノ有様ニテハ約束整ヒタランニハ成ルベク速ニ結

婚ナス方上策ナルガ如シ

茲ニ舉タル二三ノ例ニヨリテ先ノ原則活用ノ方向モ稍悟  
ラル、事ナルベシ

○ 松下蘇平の事を記す

東京高等女學校教諭 中 邨 秋 香

天保の頃駿府町奉行の組與方に、松下蘇平といふものありけり、父某りの家に召使ひける下婢にまうけたる子なりしかば、賤しき腹に生れしものなりとて子の様にもせず、やがて其婢に暇とらせ、蘇平をを親子の縁切て婢にあたへてけり、されば蘇平は父なし子の如くにて生長せしが、人となり(一)俠氣ありて能く人に交はれり、もとより定まれる職業とて(二)もなければ、賤しき業といふ業いと(三)なみて、からく其日を過しけるに、其頃松下某ゆくりなく病死し、嫡子某もまた續きて世を早うしければ、親族の者相議りて、外に家つぐべき者もなければとて、蘇平を迎へて松下の家繼がしむ、蘇平文字を知らず、また吏務に(四)ならはねども、性質敏捷なりければ、機に臨み變に應じて能く事を處し、人の意表に(五)いづる事ども常に多かり、今其一二をいはゞ、上州無宿の博徒五人、江戸にて或る吏員を殺し、道

を甲州に取りて遁れしがありしに、江戸より時の駿府町

賊方仮役に補し捕方十人を従はしむ、其夜蘇平かの博徒



を甲州に取りて遁れしがありしに、江戸より時の駿府町奉行跡部山城守に内牒して、彼輩必定駿河に入るべし、ゆるすまじき罪人なれをいかにもして捕て参らすべき由<sup>(四)</sup>。嚴命あり、元來此輩は名たぐるあふれ者にて、一人當千とも云ふべき者どもなるを、それが五人一隊となりて、用心して行く事なれば、容易く手を下すべくもあらず、さりとて江戸より殊なる内命ありしものなるを、え捕らで見遁したらんには、奉行の職たつべからず、いかゞはせん。評議す、蘇平末坐よりすこみいで、<sup>(五)</sup>「そばさばかり難きこととも覺え候はず、某に任せられんには三日をいせずして捕りて参らすべし」と云ふ山城守きこて、「さらば捕方(捕亡吏の事)は幾人をか従ふべきぞ」と問ふ「用なき者多く召ぐしははんこと然るべからず、召捕りたらん後繩取らん者だにいはゞ事足りぬべくい」と答ふ、山城守押返して「人數寡からんには、捕りもらさん程もはかるべからず」といふ、蘇平打笑ひて「御心を煩はし玉ふな、捕縛の事は某計らふべき様こそいへ、他人の手を借りひに及ばず」と申す、「さらば兎も角もはからふべし」とて、即ち盜

賊方仮役に補し捕方十人を従はしむ、其夜蘇平かの博徒等が、府城の北なる安東村の観音堂のうちに宿れるよしを聞き、先かの捕方の者召して「汝等かの村はづれにありて我をまつべし」と下知し、みづからは潤袖の衣に三尺帶纏ひて、博徒の姿に出立ち、昔友だちなりける博徒のうち、才力ある者四人を携へ、彼等が宿りし観音堂に入りて賭博を挑む、彼等初めは疑ひて頗る戒むる色ありしが、其寸鐵をも身に帯びず、且其伎の稍熟せるさまをみてやうく心懈りつゝ勝を競ふ、蘇平等初め佯りて彼等に十分の勝をあたへ、また漸くにして勝を己れのかたに引く、<sup>(八)</sup>彼等之を奪はれじと氣を専らにして勝負を争ふに至り、戒心全く弛むを見すまし、蘇平一聲高く御上意と叫ぶとひとしく、五人同時に立かゝり、難なく繩をば打たりけり、<sup>(九)</sup>山城守其功を賞し班を進めて吟味方とす、又或るとき町方の豪商某、心願の筋ありて、蘇平に物多く贈りて其願の成らん事をこふ、蘇平きこて<sup>(十)</sup>「此願叶ふべからず」と云ふ、「金費はんことは厭ふ所にあらず、あはれ御聞届あるべき様に計はせ玉へ」と繰返ししく請ふ、さらば金子も



て來たれとて貳百兩うけてけり、其後某來たりて「彼の願  
 今に至るまで仰ごとなきはいかなる故にか候らん、かの  
 ものゝ尙ほ不足なるが爲には候はじや」といふ、「さ思はん  
 には汝が心に思ふ程のものもて來たれ」とてまた金百兩  
 うけ納れぬ、程經て其願叶ひがたきよし奉行所より言渡  
 されければ、某驚きて蘇平が家に至り、さまざま歎き申  
 す、蘇平打笑ひて「公儀の事は金の力の及むぬものといふ  
 事、今日はさすがに合點せしなるべし」とぞういひける、其  
 頃蘇平が家に町方總代の者よびて、市民の困窮なる者に  
 分ち與ふべしとて金三百兩渡し事あり、これぞ即ちか  
 の金にてあらんずらんと、人々沙汰しぬ、平常富強なる  
 ものを抑へ制して、貧弱なる者を助け救ひければ、毀る者  
 は甚しくりしり、譽むる者は甚しくほめけりとぞ、

(一)復軒云俠の字末段に至りて説きをさむ (二)又云  
 賤しき業云々賭博の伎を伏線にす (三)棲碧云機に臨  
 み云々後段計をもて博徒を捕ふるの伏線 (四)百川云  
 白石先生の口吻 (五)百川云問答の文白翁の神髓を得  
 たりといふへし (六)復軒云故態を活用す又云是即ち

古物 毘沙門の本地第三

心算 (七)棲碧云袁彦道の伎倆を叙する一段前文の賤  
 き業云々に應ず (八)復軒云賊の心を擒縦する所絶妙  
 又云復命の事を省く所妙 (九)百川云評し得て妙

(十)復軒云冒頭の一斷言後段に應ず百川云此段蘇平の  
 所爲矯にすきて中道を得たりといふへからす即ち下文  
 にいふ所のそしる者は甚しくりしるに應ず (十一)棲  
 碧云蘇平の膽大斗の如しとるいふへき (十二)棲碧云  
 首段の俠氣あり云々此に至て其實を見はず (十三)  
 又云此結尾なかりせば蘇平は區々一瞻見たるに過ぎず  
 叙し得て筆力の斤兩幾千萬なるを知らす (十四)復軒  
 云衆皆褒むる者は愚直の人なり君子は褒め小人は毀り  
 て後に其人となりを知へし

如此の結法亦譽にすきす毀にすきす是る傳世の文とはい  
 はまし 依田百川 妄評  
 源紫陽の文より運用し來れるものなから甲乙應答の段に  
 至りては最も妙といふへし 小中邨清矩 妄批  
 善く藩翰譜の風骨を得たるもの大槻復軒 妄

○

姫宮の戀ひ玉ひしも道理なりとぞ申しける太子暫しま



たりといふへし (六)復軒云故態を活用す又云是即ち

古物 毘沙門の本地第三 語本

大王の玉ふやういまだ姫宮の御すがたを其儘おきて侍る  
 と仰せければ太子の玉ふやう變る御容貌なりとも今一目  
 見まおらせたきとの玉へハ姫宮住み玉ひし處へ入れたて  
 まつれば御めのとを初め其外數の女房達太子を見たてま  
 つりて一度にわつと泣きて悲みける太子姫宮の錦の褥を  
 ひきあげて御覽じければ未だ御貌も變らで只寢入りたる  
 やうに御はします尙色白く面瘦玉ふ計りにて露程變りた  
 る御氣色もなく大きに美しくくならせ玉ふ太子御覽じて  
 御心の中せんかたなく御傍を見玉へハ書すさびたるも  
 のあり此れを御覽するに

戀説て野邊のけふりとなりぬるを

誰れか浮世にあはれとはみん

廻り逢ふをしなければまきはしら

遂に名残りのはてしなりけり

と遊ばしたるを見玉ふにつけてもいと憫れハ増りける  
 太子餘りの御なげきに姫宮の御そをに生たる人につきそ  
 ひたるやうにておはします太子の御容貌いと美しく侍れ

○

ハ姫宮の戀ひ玉ひしも道理なりとぞ申しける太子暫しま  
 どろみ玉へハ御夢に姫宮ありし時よりも尙嬋娟にならせ  
 玉ひあな淺間しや太子ハ未だ此世にましますものを身づ  
 から契りを深く頼たりし故に世を空しくなりしなり太子  
 變らぬ御心ざし深くましくて身づからを今一度御覽ん  
 ぜんと思し召さを身づからを尋ねて來り玉ふべし我ハ黃  
 金の筒井と申す處に早や生れ換りて侍るなり娑婆世界に  
 はあらず大梵王宮の都なり此の世界にて逢ひたてまつら  
 んことハかたかるべし身づからハ歸りひなりとくく訪  
 へせ玉へとてさめぐと泣き玉ひて斯くなむ

この世こりふたゝび見えぬ中なれど

つおにハ君にあふよしもがな

斯様にの玉ふほどに御袖を扣へ玉ひ我をも俱し玉へと御  
 返事を申さんとし玉へハ大王ハ太子を慰さめまおらせん  
 とや思し召しけんさのみハなげかせ玉ひそと仰せられし  
 御聲におどろき玉ひて斯くなむ

うたゝねの夢に容貌ハありつれど

さむるうつゝにれもかげはなし



と仰せられて大王と后妃きさきにこのよし夢物語ゆめものがたりし玉へばいと  
 と御なげき申すをかりなり太子は彼かのところへ尋ねてゆ  
 かんかと仰せられける大王の玉ふやう仰せはさる御をなれ  
 ども如何にとして左様の處へは尋ねいらせ玉ふべき是れ  
 にわたらせ玉へ姫宮のかたみとも見れてまつらんりのう  
 へ維幔國ゆいまんこくの御父母おんちちはの御なげきも罪深しとて留め申させ玉  
 へども維幔國ゆいまんこくの大王と后妃きさきの御方おんかたへ御文おんふみをこまゝと遊  
 ばしてまねらせられける摩耶國まやこくへも文ふみあり思ひがけぬ御  
 なさけにあづかりつるなど遊をし送り玉ふ狗婁國くわうこくの大王  
 の玉ふやう我命わがいのちあらん限りは如何いかならん途みちまでも尋ね奉  
 らんとて御涙おみたまの隙ひまよりもかくなん  
 死しして別れ生きてわかると思ひゆへ

左ひだりみぎりにものぞかなしき

どの玉ひて泣き玉ふこと限りなし

偕さて太子は雲蹄駒うんでいこまに向ひての玉ふやう畜生ちくしやうとても物心は

知るしるかたし汝駒なんぢこまと申せどもうの故あり我は然るべき處へ

も行ゆかばやと思ふなり送りつくべきかと仰せければりう

(翻か又は龍りゆうの義か) ふしまろびて嬉よろこしげにぞみわけける太子喜よろここび打

きにあらん命いのちあらん限りは尋ねて見んと涙を流し玉へば

乗らせ玉ひて西に向ひて霞かすみの鞭むちをうち玉へを何處どこともな  
 く虚空こくうに上り夜晝よるひるとなく三年まで飛とせ玉ふほどに高たかき山  
 ありうちあのぼせ見玉へば僧そう一人ひとり本尊ほんぞんに日傘ひがさ添そへて頸くびに掛か  
 たるに逢あひ玉へり太子は御心おんこころの中思束ねづかなく思し召志人めいしにんに  
 逢あへかし知らぬ山路やまぢを問はまじと思志召しけれどもつや  
 く逢あふ人もなし如何いかになるべき身みの果はてなるぞと思し  
 けるに此の僧に逢あひ玉ひて嬉うれしく思し召志馬うまより下くだりさ  
 せ玉ひて思ひよらぬ申ことにて侍れども大梵王宮たいぼんわうぐう黄金こがねの  
 筒井つづみと申處なり知らせ玉ふと問はせ玉へを此僧このそう大きに驚  
 きたる体にて如何いかなる人にておはするぞ此の途みちと申は有あ  
 漏ろうの身にては通とほらぬ途みちなり昔むかしより今いまに至るまで茲こゝをば  
 魂たましひならでは通とほはざる途みちなりとの玉へば太子の玉ふやう  
 然るべき契ちがひりありて斯様の途みちに赴おもむき候能く教へてたび  
 候へと仰せられければ僧そう仰せけるやうは忠誠まめやかに憐れにこ  
 そ侍れ去りながら此の途みちたやすく入らせ玉ふべきやうあ  
 るべからず思し召しとゞまり此れより歸かへり玉へかし我れ  
 らも左様の處をを傳つたへ承うけたまはりひへども委まかはしくは知ら  
 ざるよし聞きこえければ太子の玉ふやう此れまで來り歸るべ

其の河の早きと限りなし其れへは三年して行くみちなり



(騮又は龍)の義か) ふしまろびて嬉しげにぞみわけける太子喜こび打

ざるよし聞えければ太子の玉ふやう此れまで來り歸るべ

きにあらず命あらん限りは尋ねて見んと涙を流し玉へば  
僧徒も墨染の袖をぬらし玉ふ

其時僧の玉ふやううれほごに思し召す事ならばこれより  
西をさして九の月ねはしましていはゞ犬二三疋腰につけ  
たる人に逢ひ玉ふべし其れに委はしく問ひ玉へこれまで  
は誰れか教へて參らせ玉ふと尋ね玉はゞ娑婆世界にては  
一切衆生を導き玉ふ恭養菩薩又はゆふつく(夕告)星とも  
やす僧の教へたると對へ玉へとありしかば嬉しく思し召  
し教への如く九の月行て涉覽するに犬二三疋腰につけた  
る僧の清けなるがみえ玉ふ太子馬より下り玉ひて物やさ  
んと仰せければ何事ぞと對へ玉ふ娑婆世界ふて契りま女  
人大梵王の黄金の筒井といふところにぞ生れたるよし夢  
に見い告げ侍る彼の處へ尋ね行きい委しく教へてたびい  
へとの玉へば此の途へは有漏の身ながら通ふるとなし不  
思議にぞ思えける左様の處をば傳へ聞て侍れども委はし  
くの知り參らせずい我れも果敢なきとにはかされて年に  
一夜の契りを頼みて待兼たる思ひに知られて痛はしくこ  
り侍れとて教へ玉ふ此れより西においあまえて大河あり

其の河の早きと限りなし其れへは三年して行くみちなり  
河の廣きこと三百由旬なり如何にしても渡るべきやう更  
らになし其の川の溜りに右近の橋左近の櫻とて木あり  
其處に幼き男子一人女子一人左り右りに置きて愛したる  
女人あるべし其れに問せ玉へ扱これまでは誰が教へてわ  
たり玉ふとありしかを彦星の教へずと對へ玉へとの玉へ  
は嬉しく思し召して駒に乗り玉ひて三年の途を三十日に  
行き付き玉ひて涉覽すれば大きな河あり更に渡るべき  
やうなしさればとて歸へるべきにもあらずとて駒に乗り  
玉ひて霞の鞭を當て玉へばなんなく向ひの岸にぞつき玉  
ひける教の如く二人の幼穉き人を愛したる女人あり斜な  
らず美しくとくこそ見いにけれ太子馬より下りさせ玉ひて  
黄金の筒井といふ處や知らせ玉ふとの玉へば女人の玉ふ  
やう如何なる人の教へにてこれまで來り玉ふぞと問ひ玉  
へを彦星の教へにて侍るなりまことにさるをあり來る秋  
毎を契り何時となく心細き住にて。此のおさなひものを  
慰むるとも侍らず不思議の事を承はるものかなとて笑は  
せ玉へば太子申させ玉ふやう娑婆にてかりそめの契りを



結むすびたる女人にひかされて尋ぬる心の苦しさを憫れみ玉

へ左様なる處を能よくく教へてたび候へと仰せければ女人

き玉ひ左様の處ありとは聞およべども委しきとは知り

侍らず候去りながらこれより西むかに向ひて三年三月行かせ

玉は目出度僧めでたきううに逢あはせ玉はんに問ひ玉へ如何なる人の

教へたるかと問ひ玉は七夕たなばたの教へなりと對へ玉へとあ

りければ太子御涙かみたを流し玉ひて斯かくなん

浅間あさましゃいか迷まよへるみちなれば

いつを限りにたづね逢ふべき

いと憐れげにの玉へば女房も斯く咏じ玉ふ

今さらに何をなげくぞうきことの

かゝるみちとは兼て知らずや

とて如何にもしてたしかにおはしませとて御涙なみだを流させ

玉ふ太子も御名残おんちごりを惜をませ玉ひけるさて馬にめして三年

三月の途を行過ゆきすぎて御覽するにゆかしげなる僧七八人に逢

ひ奉り玉ふ太子は馬よりをり玉ひて云云の處しゆくや知らせ侍

ると仰せければ僧大ううきに驚おどろき玉ひて昔しより此の途みちは有

漏ろの身ながら行く事なし怪しくも侍るものかなどの玉ひ

ければ太子然るべくは彼の處を教へ玉ひてたびは知ら

ぬ途をたどり行くを露つゆの命いのちをしからねどもかやうにま

よひ申事よとてなみだをながし玉へば僧是れを御覽ごらんじて

憐あはれなるをにて侍るがこれより三十三年おはしてなほ空

へ登のぼり玉ひてりこはかともなき山の中を三七日おはしま

したらんに黄金こがねの足あしたをばきて同じく杖つゑをつきかう(繪を

に黄色に黄色なりなり)の袈裟けさかう(上同)の衣ころもをきたまへる僧ううに問ひ玉へ

委あはしく教へ玉ふべし誰れが教へ玉ふと問はせ玉は七

曜ようの星ほしの教へなりと對へ玉へとありしかば太子御涙なみだを流

し玉ひて果敢はかなかりし契ちがひりかなとて斯かくなん

知らぬ途みちに思ひいりけんかなしきよ

懸路こひぢならずばたれか行くべき

この玉ひて今更歸るべきにもあらずとてりうに打乗り玉

ひて三十三年(十三年にゆきつき給ひて御らんに行く途を十三年するに大火の山とてあるへき

歟)の山とて焔ほのほ燃へ焦ると事ひまなし其れを四十九日おは

して彼かの山の南を御覽ごらんじて焦熱大焦熱しょうねつたいしょうねつの驛しゆくを西へ行き玉

ふべし其れを過すぎて長夜の闇とて此途こそ一切衆生の魂いづまいしちじうたまし惑

ひ歩あるき行ひなり罪深つみふかきもの後悔くわうかい悲かなしみあり此の苦しきは

焦熱の苦しみにおとらずして月星の光りもなければ只茫むら

平面國ノ話ニ付テノ質問及答

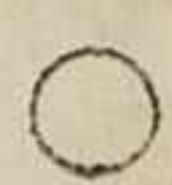


漏の身ながら行く事なし怪しくも侍るものかなどの玉ひ

ひ歩行ひなり罪深きもの後悔悲みあへり此の苦しみは大

焦熱の苦しみにおとらずして月星の光りもなければ只茫然としてあれども先も知らざる世にて侍れを痛はしくころいへ但し太子は妄念の罪をうけさせ玉へども大焦熱の苦しみをば受け玉はず罪深きものを思し召しやらせ玉へ彼の途を行せ玉はんときは南無能滿諸願大悲虚空藏菩薩と念じ玉へ光りを放ちまおらせん其の光りにつけておはしませ其れを行き過ぎ玉ひなを竹の林あるべし其中を十三日が間にはしましなをゆかしく美しき所あるべし其れを三里計りればしまして御覽じいへ隨身二千人をかりたなびきて白銀の輿にめされてればしまし人逢玉ひて委しく問せ玉へこれまでは如何なる人の教にて來り玉ひしと問せ玉へば娑婆にては一切衆生を照し玉ふ明星の星又冥土にては虚空藏菩薩とやせし僧の教へにて侍ると仰せいへとの玉へ太子は御教の如く彼の途に迷ひ玉ひしもすこしははると心地して嬉しくころはべれ(第三册終)

應 問



平面國ノ話ニ付テノ質問及答

本誌第八十號へ載セタル菊池大麓先生ノ平面國ノ話ニ付テ越後魚沼某氏ヨリ左ノ如ク質問(寧口駁論ト云フ方當レルカ)ヲ送ラレタレバ同君ニ乞テ之ガ答ヲ得タリ即此ニ掲ク

編者識

四乗方以上ノ形体ニ付テ 越後 魚 沼 某

貴社雜誌第八十號平面國ノ話中ニ「我々ノ宇宙間ニ於テ幾何學上ニハ $2^2$ ニ對スルモノハ(中略)体ヨリ上ノモノ也」トアリ然レモ $2^4$ 以上ハ左ノ如ク形体ヲ現ハシ且説明シ得ベシト信ズル也

假ヘバ $2^2$ ハ $2^2$ ノ $2$ 乗ナレバ $2^3$ 即立方体ヲ二個(1)ニ於テハ三個 $2^4$ ニ於テハ七個ノ如ク根數ニ應(2)合セタルモノニシテナラブレバ方柱体ヲナス又 $2^5$ ハ $2^4$ ノ $2$ 乗ナレバ $2^4$ 即方柱体ヲ二個合セタルモノニシテ併ブレバ立方体(假リニ名ク、底面正方形ニシテ一邊ノ長サ厚サノ自乗ヲ有ツ者)ヲナス $2^6$ 又之ニ準ジ $2^2$ 即平方体ヲ二個合セタルモノニシテ重ヌレバ正ニ立方体ヲナシ而シテ其一邊ハ $2^2$ 即トナリ始メノ形体ニ復ス



如此何ノ數ニテモ幾次乘スルモ譬ヘバ點線面ノ如キ(性質異ナレト越ハ同ジ)三種ノ形体ヲ順環ノ現シ遂ニ無窮ニ至ル也

故ニ某數ノ3乗以上ハ總テ宇宙間ニ於テ實體ナルモノ也  
形狀ヲ有スルモノ也(6乗以上ハ3、4、5乗ヲ繰返スノミ)ニ乘以下ノ點線面ハ其陰影ノ如シ

(圖及圖ノ説明ハ略ス)

答

菊池大麓

「ダイメンション」ノハ隨分六ヶ數モノト見ヘ東京ノ或ル先生モ曾テ某氏ト同様ノ考ヘヲ爲シタルコトモ有リ  
某氏ニ於テ斯ノ如キ誤謬ニ陷ラル、モ決シテ無理ナラズ  
余ガ此平面國ノ話ヲ爲シタルハ即此等ノ點ヲ説明セン爲メナリシガ余ガ言ノ足ラザルヲ以テ此疑ヲ生ズルニ至ルハ慚愧ニ堪ヘズ因テ再ビ左ニ聊其説明ヲ述ブ若シ某氏ニ於テ之ヲ解セラルレバ幸甚

原來此誤解ハ有名數(コンクリート、ナムバー)ト無名數(アブストラクト、ナムバー)ヲ混合スルヨリ起リタルモノナリ

某氏ノ如ク $2^2$ ハ $2^3$ ノ2乗倍ノ意ナラン、因テ以下倍トス)ナレバ立方ヲ二個合セタルモノナリト云フナラバ何故ニ $2^2$ ハ $2^2$ ノ2倍ナレバ二寸ノ線ヲ二個合セタルモノ

又 $2^3$ ハ2寸ノ線ヲ四個合セタルモノ或ハ $2^2$ ノ2倍ナレバ4寸ノ方ノ正方形ヲ二個合セタルモノト云ハザルヤ是ヲ云フモ差支ナキナリ又某氏ノ如ク $2^4$ ハ二寸立方ヲ二個、 $2^6$ ハ之ヲ八個合セタルモノト云フモ決シテ誤リニハ非ラズ唯余ノ云ヒタル所ニハ少シモ關係ナキコトナルノミ

某氏ヨ本誌第八十號二百十八丁下段ノ十三行以下ヲ少シク委シク讀マレヨ最初線ノ長サヲ2トハ何が2デ有ルカト云フト即2寸ナリ云々ツコデ又各邊二寸ノ正方形ノ面積ハ $2^2$ 即4ナリ此4トハ何デ有ルカト云フト4方寸ニテ前ノ2トハ全ク異ナレル名ノ量ナリ勿論唯4ト云ヘバ4寸ヤラ4方寸ヤラ4斤ヤラ4時ヤラ分ラズ某氏ノ如ク論ズレバ $2^2$ ハ $2^2$ ノ2倍ナレバ4ハ4寸ノ長サノ線ヲ表ハスト云フテモ可ナリ吾輩ノ云ヒタルハ $2^2$ ニ對シテハ2ニ對スル線トハ全ク異ナレル幾何學的ノ形有リ2寸ノ

2ト4方寸ノ4トハ其單位ガ全ク異ナレリトノコナリ

ノトスレバ此 $2^2$ 即16ノ單位ハ何ナリヤ單位ハ矢張前ノ



ノナリ

2ニ對スル線トハ全ク異ナレル幾何學的ノ形有リ2寸ノ

2ト4<sup>1</sup>方寸ノ<sup>14</sup>トハ其單位ガ全ク異ナレリトノコナリ  
 次ニ<sup>2</sup>ニ對ノ各稜<sup>2</sup>寸ノ立方ナル形有リ而シテ此ニ8  
 トハ前ノ寸ヲ8デモ又方寸ヲ8デモナシ一寸立方ナル單  
 位ヲ8ニシテ全ク前トハ異ナレルモノナリ固ヨリ<sup>2</sup>ハ<sup>2</sup>  
 ノ<sup>2</sup>2即チ4倍ナレバ二寸ノ線ヲ4個合セタルモノト云  
 フテモ宜シ其時ニハ<sup>2</sup>トハ<sup>2</sup>2寸即8寸ト云フコニシ  
 テ單位ハ寸ナリ又<sup>2</sup>ハ<sup>2</sup>2ノ2倍ナレバ前ノ四方寸ヲ  
 ニツ合セタルモノナリト云フモ可ナリ其時ハ<sup>2</sup>トハ<sup>2</sup>2  
 方寸即8方寸ニシテ其單位ハ方寸ナリ然レモ余ノ云ヒタ  
 ルハ<sup>2</sup>ニ對シテ前ノ線、面トハ異ナレル一ツノ幾何學的  
 ノ形即立方ナルモノ有リト云ヒタルナリ此時ノ單位ハ寸  
 デモ無ク方寸デモ無シ立方寸ナリ<sup>2</sup>マデハ一乘毎ニ之  
 ニ對シ異ナレル種類ノ形有リト云ヒタリ而シテ<sup>2</sup>ニ至  
 リテハ是ナシ面ガ線ト異ナリ立方ガ面ト異ナル様ニ立方  
 ト違フ形ハ有リヤ是即余ノ問題ナリ  
 某氏ノ<sup>2</sup>ハ<sup>2</sup>2ノ2倍ナレバ立方ヲ二個合セタルモノナ  
 リト云フハ前ニ<sup>2</sup>ハ<sup>2</sup>2ノ2倍ナレバ正方形ヲ二個合セ  
 タルモノナリト云フニ同ジ<sup>2</sup>ハ立方ヲ二個合セタルモ

ノトスレバ此<sup>2</sup>即16ノ單位ハ何ナリヤ單位ハ矢張前ノ  
 如ク一寸立方ナラズヤ然レバ是レ異ナレル種類ノ形ニ非  
 ラズ余ノ提出セル問題ハ<sup>2</sup>ニ對シテハ面ノ線ニ於ケル  
 如ク体ノ面ニ於ケル如クニ体ニ於ケルモノ有リヤト云フ  
 ニ在リ而シテ余ハ「吾々ノ知ル所デハ<sup>2</sup>ニ對スル異種ノ  
 單位ハ出來マセヌ此ニ對スル特殊ノ形ハ有リハシナイ」  
 ト答ヘタリ（此所ヲ付シタル語ヲ脱シタルガ某氏ノ誤リ  
 ノ原ナラン）  
 線ヲ幾ツ加ヘテモ面ニハナラナイ面ヲ幾ツ加ヘテモ体ニ  
 ハナラナイト同様ニ体ヲ幾ツ加ヘテモ出來ナイ所ノ幾何  
 的ノ形ガ余ノ求ムル所ノモノナリ余ノ想像シテ作ラント  
 スル四ツノ「ダイメンション」ノ体ナリ  
 線ガ動ケバ其通りタル跡ハ面ナリ面ガ動ケバ其通りタル  
 跡ハ体ナリ体ガ幾ラ動キテモ其通りタル跡ハ矢張り体ナリ  
 是其動キ方ガ前ノ線、面ノ動キ方ト異ナレバナリ線ガ動  
 テ跡ガ面ニ成ルニハ線ハ其線世界ヨリ外ヘ動クナリ線内  
 ニ何程動クモ面ヲ成サズ面ガ動キテ体ヲ成スニハ其面外  
 へ動クナリ面ガ其面内ニ何程動クモ体ヲ成サズ而シテ体ノ



動クニハ吾々ハ此体ヲ其体ノ在ル宇宙ヨリ外ヘ動カスヲ知ラヌナリ知ラヌ故ニ体ヨリ以上ノモノヲ成スヲ知ラザルナリ云々是等ハ前ニ述タル事ヲ操り返スヲナガラ参考マデニ申スナリ

○ 鑽石ノ分析

愛知縣下春井郡ノ久野三二郎ト言ヘル人ヨリ控山上一「メートル」平方毎ニ大約重量半「オンス」乃至三「オンス」ノ鑛輝アル塊或ハ銹鐵ノ如キモノ平均二三個ヅ、散布シ居リ此レ等ノ物質ハ主ニ酸化鐵水化鐵及ヒ粘土ノ混合物ナラント思ヘトモ賣藥規則嚴ナルヲ以テ容易ニ試驗藥ヲ買求スルヲ能ハス故ニ右鑛物ヲ通運ニ托シ差送りマスカラ試験ノ上何卒右主ナル成分ヲ本誌ヘ掲載シ下サレ度トノ義申越サレ又右鑛物モ到達セシヲ以テ其分析ヲ理科大學ノ櫻井氏ニ依頼シタルトコロ同氏ハ化學科學生ノ定性分析ノ材料ニ供シタルトコロ同學生池田、小川ノ二氏ハ左ノ結果ヲ報告セリトテ本社ヘ送ラレタルヲ以テ之レヲ茲ニ掲ケテ久野氏ノ質問ニ答フ

第一、稍々柔軟ニシテ鶯色ヲ呈ス(池田氏分析)

礬土

酸化鐵

硅酸

多量

カルシウム

ソヂウム

少量

硫酸

痕跡

第二、稍々堅硬ニシテ黑鶯色ヲ呈シ半透明ナリ(小川氏分析)

礬土

酸化鐵

硅酸

多量

アンチモン

錫

少量

カルシウム

マグネシウム

ソヂウム

ポタシウム

痕跡

○ 藍ヲ立ツルニ灰汁ヲ用フル事ニ付テ

三好昌信氏ヨリ左ノ一編ヲ寄セラレタルニ由リT. T. 氏

へ送り其辨解ヲ得タリ依テ共ニ此ニ掲ク

編者識

ム然ルニ此第一鐵ハ第二酸化鐵ニ移ラントスルノ性强キ



茲ニ掲ケテ久野氏ノ質問ニ答フ

三好昌信氏ヨリ左ノ一編ヲ寄セラレタルニ由リT.T.氏

へ送り其辨解ヲ得タリ依テ共ニ此ニ掲ク 編者識

貴社雜誌第八十二號應問ノ部ニ岡田梅人氏ノ藍玉分析法  
 及ヒ灰汁ヲ用ユル問ニ對シT.T.氏ノ答ニ灰汁ヲ用ユルノ  
 辨解ハ餘リ簡單ニ過キ問者ノ解スルニ苦シム所ナキニ非  
 ラスヤト左ニ灰汁ヲ用ユルノ化學的作用ヲ陳ント欲ス貴  
 社幸ニ餘白アラハ掲載ノ勞ヲ惜ムナカレ

舊來藍玉還元法ニ灰汁ト石灰ヲ用ヒ來ルハ其灰汁中ニ炭  
 酸「ポッター」ノ溶含スルヲ不知不識用ヒ來ル者ニテ其  
 灰汁(則チ炭酸  
 ポッター)ニ石灰ヲ加和スルハ石灰ハ炭酸「ポッター」  
 スレノ炭酸ト化合シテ炭酸石灰トナリ水ニ解ケサル者ト  
 ナリ沈降シ「ポッター」ヲ分離ス故ニ「ポッター」ハ水  
 ノ酸素ヲ取テ酸素ト化合シテ酸化「ポッター」トナリ水  
 ヲ分解シテ水素ヲ分離ス其水素ハ青藍ト結合シテ藍ヲ脱  
 酸セシメ藍白トナリ水ニ溶解シ始テ染用ニ供スル者ナリ  
 (青藍トハ藍玉中含有スル所ノ純粹青藍ヲ云フ)  
 又綠礬ヲ以テ藍玉ヲ還元スルモ同理ニシテ只綠礬ト「ポ  
 ッタース」ノ差違ノミ其理ハ綠礬中含ム所ノ硫酸ト石灰  
 ト化合シテ硫酸石灰トナリ沈降シ水化第一鐵ヲ分離セシ

ム然ルニ此第一鐵ハ第二酸化鐵ニ移ラントスルノ性强キ  
 タメニ水ヲ分解シ其水ノ酸素ヲ取テ酸化シ第二酸化鐵ニ  
 變シ水素ヲ離シ又水素ノ如ハ藍玉中ノ青藍ト結合シテ藍  
 白トナルナリ其法

純粹藍靛(即チ印度  
 藍靛ナリ)一、綠礬二、石灰四、水ハ染色ノ濃薄ニ  
 依リ違ヒアリト雖トモ大抵水一五〇、ヨリ二〇〇、トス又  
 還元手續キノ如キハ種々アレモT.T.氏ノ答中分析ノ手續  
 ニテヨシ

又藍玉還元ノ化學作用ハ青藍ヲシテ脱酸セシメ藍白ニ變  
 セシムルニアルノミ

三好昌信白

答

T. T.

東洋學藝社御中

藍玉ノ分析法及ヒ藍ヲ立ツルニ灰汁ヲ用フルノ理由ニ就  
 キテ岡田梅人氏ノ質問ニ對シ余ハ本誌第八十二號ニ其答  
 案ヲ掲ケタルニ其答案ハ餘リ簡單ニ過キ問者ノ解スルニ  
 苦シム所ナキニ非スヤトテ三好昌信氏ハ深切ニモ前文ノ  
 説明書ヲ本社へ送ラレタリ然ルニ惜イ哉其理論中誤謬ア



リテ却テ質問者ノ之ヲ理解スルニ苦シムノ恐レナキニ非  
サレハ茲ニ聊カ其誤ヲ正サントス

灰汁即チ炭酸「ポッターズ」ノ溶液ニ石灰ヲ加フレハ其石灰

ノ幾分ハ炭酸「ポッターズ」ノ炭酸ト化合シテ水ニ解ケサル

炭酸石灰ト爲リテ沈殿シ液中ニ「ポッターズ」ヲ生スヘシ然

レ此「ポッターズ」ハ所謂苛性「ポッターズ」ニシテ金屬ノ「ポッ

タシウム」トハ大ニ異ナルモノナリ即チ「ポッタシウム」ハ

水ヲ分解シテ水素ヲ遊離セシムルト雖モ苛性「ポッターズ」

ハ決シテ此ノ如キ性質アルモノニ非ス又青藍ヲ還元シテ

白藍ト爲スハ日本流ノ藍ノ立テ方ニ於テハ全ク一種ノ醗

酵作用ニ由ルモノニシテ決シテ水ノ水素ヲ以テ青藍ヲ還

元セシムルニ非サルナリ蓋シ藍瓶中ニ藍玉、麥糠、灰汁、石

灰等ノ物品ヲ漸々ニ混和シ適當ノ溫度ニ於テ數時間之ヲ

保持スルルハ藍玉中ニ存スル窒素化合物ト麥糠トノ作用

ニ由リ酪酸醗酵ヲ起シテ水素ヲ生ス而シテ其水素ハ青藍

ヲ還元シテ之ヲ白藍ト爲シ其白藍ハ遂ニ「アルカリ」ノ液

中ニ溶解シテ黃色ノ液ヲナスニ至ルナリ又綠礬ヲ以テ藍

ヲ立ツル法ハ實ニ第一酸化鐵ノ還元作用ニ由ルト雖モ綠

礬ハ「ポッターズ」ノ代リニ用フルモノニ非ス唯此立テ方ニ  
於テハ通常、石灰ノミヲ用フルヲ便利トスル故ニ「ポッ  
ー」ヲ要セサルノミ

批 評

○ 新ニ發行ノ諸雜誌ニ付テ

近頃新ニ發行スル雜誌ノ數ハ頗ル夥キヲニテ右ニモ新雜

誌左ニモ新雜誌前ニモ新雜誌ト云フ有様ニテ the cry is

Still they come! 今本社へ寄送サレタル二三ノ雜誌ニ付テ

妄評ヲ下サントス

氣象集誌ハ大日本氣象學會ノ刊行スル所ナリ此十五、六

年來氣象學ハ大ニ面目ヲ改メ理論上ニ、實用上ニ其進歩

ノ著シキヲハ實ニ驚ク可キモノ有リ米國ナゾニ於テハ實

業家ハ皆中央氣象臺ノ天氣豫報ニ由リテ其業務上ノ準備

ヲナシ爭テ測候所ヲ設立シ警報標ハ勿論或ハ漁車ニ天氣

豫報ノ符號ヲ付ケ沿道ノ人民ハ其走ルヲ見テ天氣ノ何如

ニナラントスルヤヲ知ルノ便ヲ得本邦ニ於テハ氣象臺ノ

設立後未ダ數年ニ及バズト雖其警報ハ云フニ及バズ天氣

ト云ハレタルニ吾輩ハ大ニ驚キタリ何トナレバ「ハロー」



ヲ立ツル法ハ實ニ第一酸化鐵ノ還元作用ニ由ルト雖モ縁

ニナラントスルヤヲ知ルノ便ヲ得本邦ニ於テハ氣象臺ノ

設立後未ダ數年ニ及バズト雖其警報ハ云フニ及バズ天氣  
 豫報ハ大ニ信ヲ置クニ足ルニ至レリ然レモ一般ノ人民未  
 タ其有益ナルヲ知ラズ測候所ノ如キモ實ニ僅々ノ數ニノ  
 氣象學上研究ノ資ニ乏シク豫報ノ如キモ亦之ガ爲ニ頗ル  
 困難ナル可シト思ハル故ニ氣象學ハ理學ノ最緊要ナル一  
 科ニシテ現今研究ス可キ事極メテ多シ且其實地ノ應用ハ  
 農業、航海ハ云フモ更ナリ養蠶、森林等本邦ノ富源ト稱ス  
 ルモノ殆ド一トシテ之ニ關係ナキモノハ非ラズ故ニ大日  
 本氣象會ノ如キハ學者ニ於テモ又實業家ニ於テモ最賛成  
 ス可キ會ト云フ可シ而シテ其集誌第一號ニ載スル所ヲ見  
 ルモ亦以テ此等ノ關係ヲ知ルニ足レリ故ニ此ニ之ヲ掲グ  
 ○本會記事○大日本氣象學會ノ沿革○本邦測候沿革史○  
 農藝氣象一斑○群馬縣養蠶法概略○日本近海颶風論附颶  
 風避航法○富士山頂上測候記事○森林ハ雨量ニ影響ヲ及  
 スヤ否ヤ○雜報○何レモ專門家ノ筆ニ成リタルモノナレ  
 バ吾輩ノ之ヲ評スルヲ要セザル者ト云フ可キカ」雜報中  
 ニ日暈ノ事ニ付本誌モ引合ニ出タルガ日暈トハ「ハロー」  
 ノ事ナランガ其ニ付テ「東京スラ一ヶ月數回ノ顯出アリ」

ト云ハレタルニ吾輩ハ大ニ驚キタリ何トナレバ「ハロー」  
 ハ左様ニ通例ノモノトハ思ハザリシナリ社友ニモ尋ネタ  
 ルニ或ハ曾テ一度見タリト珍敷ソ一ニ云フモ有リ又未ダ  
 一回モ見タルコトナシ何卒見度者ナリト云フモ有リ然レモ  
 氣象側候ノ本元ニテ云ハル、コナレバ誤リニハアラジ吾  
 ヲ及社友ノ參考ニ成可ケレバ本年一月以降東京ニテ「ハ  
 ロー」ノ顯出シタル度數ヲ掲載有ラマホシ但シ吾輩ノ云  
 フ「ハロー」トハ唯日月ノマワリニボンヤリト見ヘルカサ  
 ニ非ラズ本誌ニ毎々掲ゲ前號ニ其説明ヲ載セタル如キモ  
 ノナリ  
 ○近來雜誌ハ渡邊家流ニ一字名ナルカ或ハ古ヘノ大將  
 ノ姓名見タ様ニ何ノ何ト云フ名ガ流行スルガ、文有リ、女  
 有リ、學有リ、今ニ法、工、理、ナゾト云フ雜誌モ追々出來ル  
 ナラン、吾輩カ此雜誌ニ付テ最モ感シタルハ其第一號ニ  
 何如ナル雜誌ニテモ第一號ニハ必ズ御論說ヲ拜見スル某  
 道士ノ論說無キコトナリシナリ」ニ宅學士ノ加藤、渡邊、外  
 山、矢田部、フノロサノ諸先生ノ粗畫的ノ形容ハ中々味  
 ニヤラレタリ然シ或ハ樂屋落ガ多カラシカ」其他ハ卸シ



ナミ  
 教育評論○教育ニ關スル雜誌類頗ル多キ上ニ又此雜誌ノ  
 發行有リ教育家モ亦忙シキ哉然シナガラ若シ是ガ日本今  
 時ノ教育ノ盛ナル徴候ナラバ賀スベシク

# 社 告

本誌は第七十六號を以て第五卷の始とし此より十二册即  
 一ヶ年を以て一卷を成すものとせり

本誌は第七十六號の内務大臣の許可を得て 出版條例  
 に依るものとなり且版權を得たり 因て今後益

諸先生の貴重なる論說記事を掲載す可し

本誌は三十二「ページ」を以て一號と爲すの定めなりしも  
 近來貴重ノ材料頗る多く一昨年ノ始比よりは每號五十  
 「ページ」前後にして之に加ふるに美麗なる銅版石版等有  
 り然れ共定價は少しも増加せず唯紙數の増したる爲に郵  
 便稅壹錢の所貳錢となりたり故に地方の愛讀者には自然  
 代價の増したる姿なりしが今度左の如く改正したれば陸  
 續御注文有る可し

- 本誌一册定價 拾錢
- 六册前金(郵送稅共) 六拾錢
- 十二册前金(郵送稅共) 壹圓二十錢
- 又本誌賣高追々増加し現今の處にても一萬人以上の讀者  
 (重に教員生徒)有る計算なれば公告料左の通り改正す
- 五號文字一行(二十五字詰) 十錢
- 半「ページ」以上 二割引

東洋學藝雜誌第五卷第八十五號

## 東洋學藝雜誌第八十二號

明治二十一年七月  
 廿五日發兌

### 目 録

#### 論 說

○消火及ビ防火法(圖入)

工科大學 教授 高松 豐吉

○蕁菜粘稠液細胞論(圖入)

英國林娜學士院會員 伊藤篤太郎

○平方根、立方根ヲ發見スル進路  
 ○ヲ收縮スルコトノ規則ニツイテ

第一高等中學校教授 澤田 吾一

○寶石の話

理科大學 教授 和田維四郎

#### 雜 報

○帝國大學分科大學卒業證書授與式○試驗の成績○動物  
 學の進歩○東京高等女學校卒業證書授與式○安全「ラン  
 プ」○大學紀要の評○梯盤山の噴火(圖入)○鎌いたち○  
 「ハロー」の原因○四乗以上の形体に付て○磁力の三原素  
 ○第一高等中學校卒業證書授與式○霧島岳ノ噴煙(圖入)  
 ○二月十日ノ「ハロー」(圖入)○隕石○男山八幡神社ノ  
 黄金ノ雨樋○奇猫

#### 雜 錄

○獨逸學生事情一班(圖入)

理學士 箕作 元八

○詩二首

青萍逸人

○古物 毘沙門の本地第二  
 ○語本

青萍逸人寄送

#### 應 問

○藍玉分析法等ノ疑問ニ答フ

T. T.

ダケレドモ只一動物ノミノ解剖ニ止マラズシテ極ク下等